

沖縄における健康経営推進企業を対象とした
健康投資効果分析調査事業報告書

令和6年3月

内閣府沖縄総合事務局経済産業部

委託先：株式会社アイセック

1. 実施した事業

(1) 実施事業の概要

事業目的	<p>近年、企業において従業員等の健康管理を経営的視点から考え、健康保持・増進に取り組む健康経営が重要視されており、沖縄においては、地域のリーディングカンパニーが職域の枠を超えて、健康経営推進の取り組み「おきなわ健康経営プラス1プロジェクト」が進んでいる。</p> <p>しかしながら、健康経営が企業価値向上や業績向上へ直結しているという中小企業の健康投資効果の事例は全国的に少なく、大企業の事例にとどまっていることから、中小企業においては経営者や社内の理解が得られず、健康経営に関する取り組みの質の向上やすそ野拡大をする上での妨げとなっている。そこで本事業では、健康経営推進企業を対象に、健康投資効果に関する分析調査を行い、内的効果及び外的効果の指標設定及び健康投資額に対する健康投資リターンを数値で算出し、その結果を全国及び県内で広く展開する。また、検証手法を活用しつつ、健康経営の質の向上・すそ野拡大を目的とした健康経営優良法人の取得及び質の向上を図るための研修セミナーを実施する。</p> <p>本取り組みによって、県内での健康経営の取組みにさらに拍車をかけ、全国の好事例のモデルとして波及させる事で、今後の健康経営の更なる普及を目指す。</p>
実施内容	<p>健康経営の投資効果検証</p> <ul style="list-style-type: none">・ 沖縄県では、官民連携による届出制度等、官民連携が進んでおり、健康経営優良法人が増加している。さらには、自社の従業員だけでなく、沖縄県民や他社に健康増進を促す活動を行う「おきなわ健康経営プラス1プロジェクト」が存在する等、沖縄県は健康経営への積極的な取り組みがされている県である。しかし、中小企業にとって健康経営を推進するメリットが不透明なこともあり、中小企業は積極的な活動までは進んでいない。したがって、沖縄県の中小企業が抱える課題を洗い出しつつ、新たに健康経営に取り組めるような施策検討につながることを目標にした実証及び検証を行った。・ 株式会社アイセック（以下、「当社」）は、新潟大学医学部内科発ベンチャーとして、医学的科学的見地から検証・分析を行った。学内に膨大に蓄積された、海外でも認可されている研究論文を課題に照合して研究デザインを作成し、効果的な施策立案に繋がった。曾根教授や島津教授、永田助教を監修者とした。 <p>効果指標についての関係者ヒアリング</p> <ul style="list-style-type: none">・ 上記監修者と協議の上、ヒアリング項目を検討した。・ 主に、プレゼンティーズムやエンゲイジメント、ストレスチェック等の健康サーベイの相関分析等も含めた効果検証を行った。・ 他地域での実証結果と沖縄県内の企業の比較検証も行った。 <p>研修</p> <ul style="list-style-type: none">・ 従業員の健康推進を通し、生産性や企業価値を高める「健康経営」をテーマにしたフォーラム及び次世代健康経営者推進担当者研修（グループディスカッション含む）を開催した経験や、当社のこれまでのコンサルティング業務のノウハウを活かした研修を

行った。

- ・ 健康経営優良法人認定取得を希望する企業には、希望するスケジュール内の取得を視野に入れた研修内容とした。
- ・ 認知度を上げるため、当社が研修事業を行う中で効果的であった、チラシを配布して周知した。
- ・ 参加希望者が参加しやすいよう、オンライン会議システムを利用し、ハイブリット開催とした。

効果検証、研修を踏まえたセミナー開催

- ・ 健康経営優良法人 2024 の認定結果について、当社のこれまでの健康経営推進支援の経験を踏まえた分析検討を行い、結果に対する見解や今後注力した方がよいと考えられる分野等を講演した。
- ・ セミナー開催の認知度を上げるため、チラシを配布し、周知した。
- ・ 当該取り組みが広く認知されるよう、表彰式形式とした。また、検証参加企業においては、取組の取材を TV 局に委託し、広報を行った。

事業報告書の作成

- ・ 研修後には参加者を対象としたアンケートを行った。その結果を分析し、今後より効果的な研修を行うことができるよう、報告書にまとめた。
- ・ 効果検証モデル（研究デザイン）を共有させていただくことで、次年度の継続検証が可能な仕組みを構築し、沖縄県の健康経営推進に寄与した。

実施
体制

	氏名	部署・役職	予定担当業務・役割	専門分野
1	木村大地	代表取締役CEO	プロジェクトリーダー	公衆衛生、産業保健、血液・内分泌・代謝内科学分野
2	木村美樹	取締役CFO	サブリーダー	会計、法務
3	白崎夏子	営業部	当社における各企業の窓口	営業、法務
4	曾根博仁	取締役CMO	・ 健康経営の投資効果検証 ・ 効果指標についての関係者ヒアリング	血液・内分泌・代謝内科学分野
5	島津明人	顧問	・ 健康経営の投資効果検証 ・ 効果指標についての関係者ヒアリング	心理学、行動科学、健康科学、産業保健、精神保健学、エンゲイジメント
6	永田智久	共同研究者	・ 健康経営の投資効果検証 ・ 効果指標についての関係者ヒアリング	産業保健活動の経済評価、労働安全衛生マネジメントシステム CSR（企業の社会的責任）における労働安全衛生

事業
スケ
ジュ
ール

- 1.健康経営の投資効果検証
 - 10月中旬までに参画企業よりデータを受領し、2月中旬までには分析を終える
- 2.効果指標についての関係者ヒアリング
 - 8月中旬にヒアリングを終え、研究デザイン作成を行い、検証の準備を行う
- 3.研修
 - 健康経営優良法人認定の調査票フォーマットは8月末に公開され、10月中旬に提出するスケジュールのため、10月初旬までに開催。
- 4.効果検証、研修を踏まえたセミナー開催
 - 当該事業の成果として、検証結果及び研修の効果を共有する場としてのシンポジウムを開催。

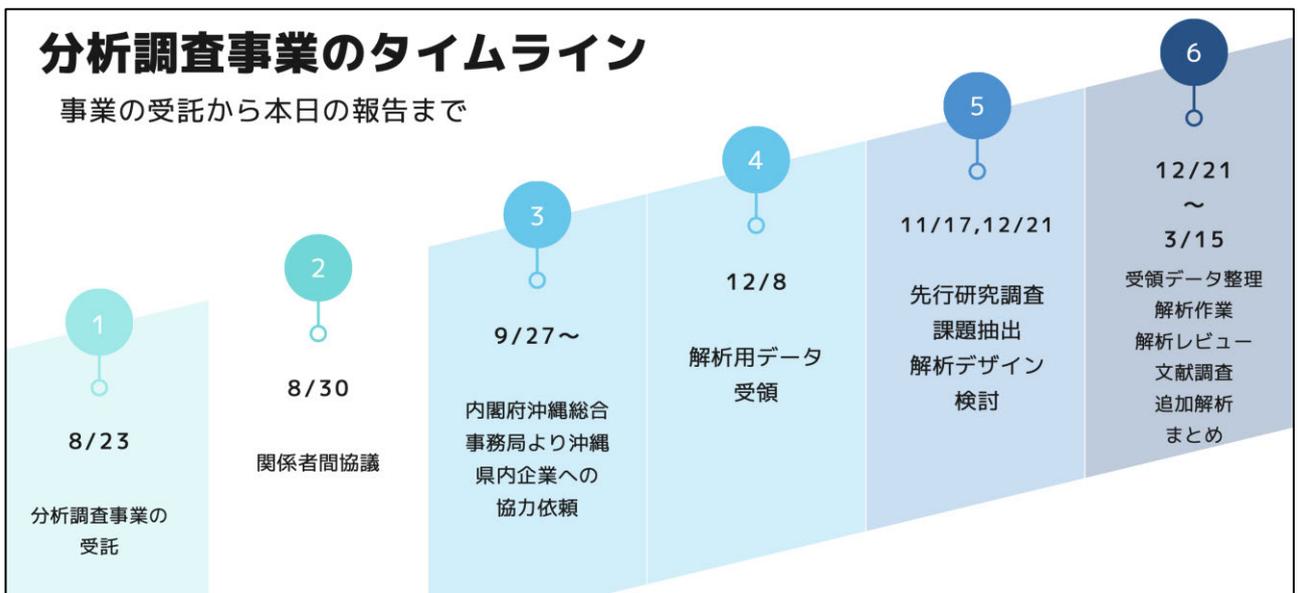
大分類	作業項目	開始日	終了日	8月							9月							10月							11月							12月							1月							2月							3月						
				21	28	4	11	18	25	2	9	16	23	30	6	13	20	27	4	11	18	25	1	8	15	22	29	5	12	19	26	4	11	18	25																								
健康経営の投資効果検証	企業選定	8月28日	9月8日	[Bar]																																																							
	対象企業へ検証事業説明	8月28日	9月15日	[Bar]																																																							
	順次、各対象企業担当者と協議及び契約等	9月4日	9月15日	[Bar]																																																							
	データ授受	9月18日	10月13日	[Bar]																																																							
	検証開始	10月16日	12月14日	[Bar]																																																							
	外部有識者または研究者の監修のもと、分析	12月18日	2月16日	[Bar]																																																							
効果指標についての関係者ヒアリング	対象企業へフィードバック	3月25日	3月29日	[Bar]																																																							
	発注者から対象者へ依頼	8月28日	9月8日	[Bar]																																																							
	ヒアリング開始（県外教育機関・研究機関等）	9月4日	8月31日	[Bar]																																																							
	ヒアリング（民間企業）	9月4日	8月31日	[Bar]																																																							
	内容のとりまとめ	9月1日	9月14日	[Bar]																																																							
	研修	2回分の開催時期や内容等を協議の上、決定	8月1日	8月14日	[Bar]																																																						
研修会の準備（資料作成・発注者への確認等）		9月4日	9月15日	[Bar]																																																							
チラシ・アンケートの作成		9月4日	9月8日	[Bar]																																																							
参加者（上記②）への周知		9月1日	9月15日	[Bar]																																																							
研修開催（1回目）・アンケート配布		10月2日	10月6日	[Bar]																																																							
研修開催（2回目）・アンケート配布		10月2日	10月6日	[Bar]																																																							
効果検証、研修を踏まえたセミナー開催	発注者と開催日程や講演内容等を協議の上、決定	8月28日	9月22日	[Bar]																																																							
	セミナー開催準備（資料作成等）	9月4日	9月29日	[Bar]																																																							
	チラシの作成	12月1日	12月15日	[Bar]																																																							
	発注者から周知	1月4日	1月12日	[Bar]																																																							
事業報告書の提出	セミナー開催	3月11日	3月19日	[Bar]																																																							
	上記①～④の結（アンケート結果含む）をまとめる	2月1日	2月29日	[Bar]																																																							
	3月15日までに報告書を提出	3月1日	3月15日	[Bar]																																																							
	指摘事項を修正し、3月29日までに報告書提出	3月18日	3月29日	[Bar]																																																							

(2) 実証事業にて実施した活動詳細

検証

(1) 健康経営の投資効果検証

<計画>



健康経営の取組に関しての 現状把握及び効果検証



健康経営の取組についての効果検証を行うにあたり、すでに健康経営実践している企業2~3社を対象とする。可能であれば、健康経営の有効性を判断するために健康経営を実践していない企業との比較も協力企業があれば実施したいと考える。

ご協力いただける企業が集まった場合、企業が保有するデータのご提供についての調整を行います。必要であれば新規で調査も実施いたします。また、調査の前に専門家による指標の設定方法や評価方法についてのディスカッションを行います。

指標や評価方法が定まった後、実際にデータのご提供をいただきます。ご提供いただく際には、不要な個人情報はマスキングし、お渡しいたぐことが望ましいと考えますが、担当者のご意見もおろかがいし、実際の提供内容については調整を行う予定です。

いただいたデータをもとに、集計、分析を行います。評価結果については、企業様のご要望がございましたら、ご報告書完成前に速報値としてもご提供いたします。健康経営度調査票にも是非ご活用いただければ幸いです。

全体の結果がまとまった後、ご報告書として納品させていただきます。結果については、セミナーや研修会においても可能な範囲でご共有させていただく予定です。

<実績>

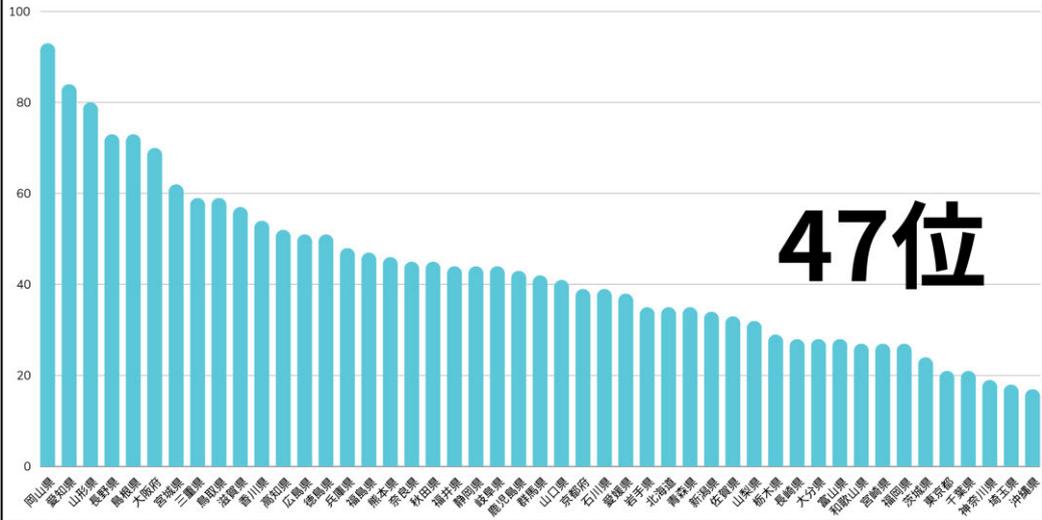
沖縄県の 中小企業における 健康経営優良法人認定取得率は 全国ワースト1位である。

健康経営優良法人2023（中小規模法人部門）都道府県別認定取得率

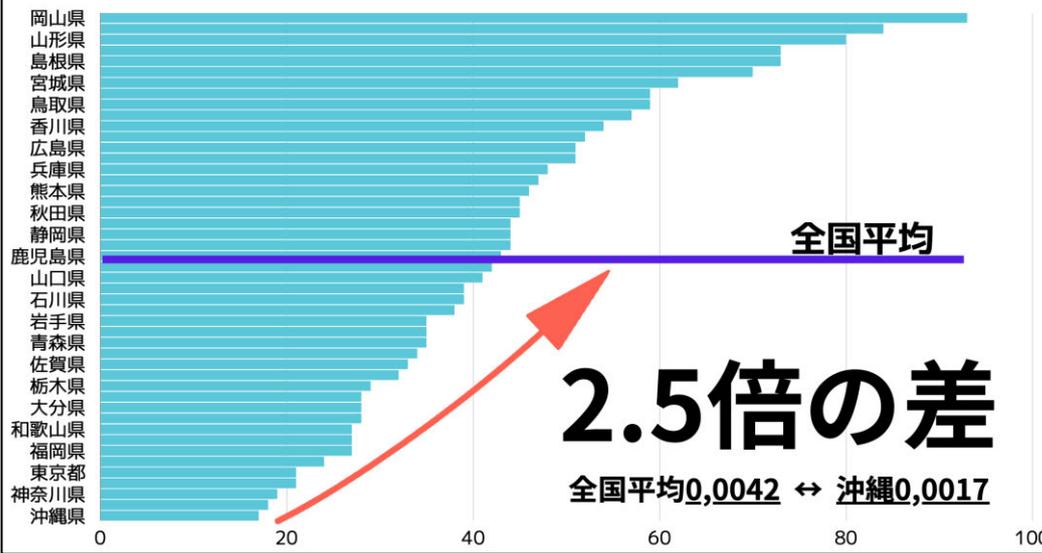
本社所在地の都道府県	計	企業総数	割合	本社所在地の都道府県	計	企業総数	割合
北海道	461	131,874	0.0035	滋賀県	184	32,195	0.0057
青森県	125	35,887	0.0035	京都府	294	74,822	0.0039
岩手県	117	33,245	0.0035	大阪府	1828	261,653	0.0070
宮城県	348	56,023	0.0062	兵庫県	650	134,030	0.0048
秋田県	130	29,042	0.0045	奈良県	135	30,062	0.0045
山形県	277	34,593	0.0080	和歌山県	87	31,817	0.0027
福島県	249	53,235	0.0047	鳥取県	86	14,623	0.0059
茨城県	172	72,818	0.0024	島根県	142	19,550	0.0073
栃木県	155	53,541	0.0029	岡山県	466	50,112	0.0093
群馬県	248	58,555	0.0042	広島県	400	77,919	0.0051
埼玉県	267	150,113	0.0018	山口県	141	34,128	0.0041
千葉県	242	114,104	0.0021	徳島県	118	23,237	0.0051
東京都	892	419,013	0.0021	香川県	154	28,593	0.0054
神奈川県	348	183,675	0.0019	愛媛県	149	39,605	0.0038
新潟県	227	67,093	0.0034	高知県	116	22,403	0.0052
富山県	87	31,390	0.0028	福岡県	349	130,936	0.0027
石川県	143	36,839	0.0039	佐賀県	74	22,383	0.0033
福井県	119	26,868	0.0044	長崎県	107	38,236	0.0028
山梨県	90	28,526	0.0032	熊本県	214	46,778	0.0046
長野県	484	66,551	0.0073	大分県	89	31,967	0.0028
岐阜県	284	64,426	0.0044	宮崎県	85	31,861	0.0027
静岡県	481	108,727	0.0044	鹿児島県	199	45,780	0.0043
愛知県	1646	195,313	0.0084	沖縄県	75	44,368	0.0017
三重県	273	46,382	0.0059	合計	14,007	3,364,891	0.0042

ACTION!健康経営：健康経営優良法人2023
中小企業庁：中小企業の企業数

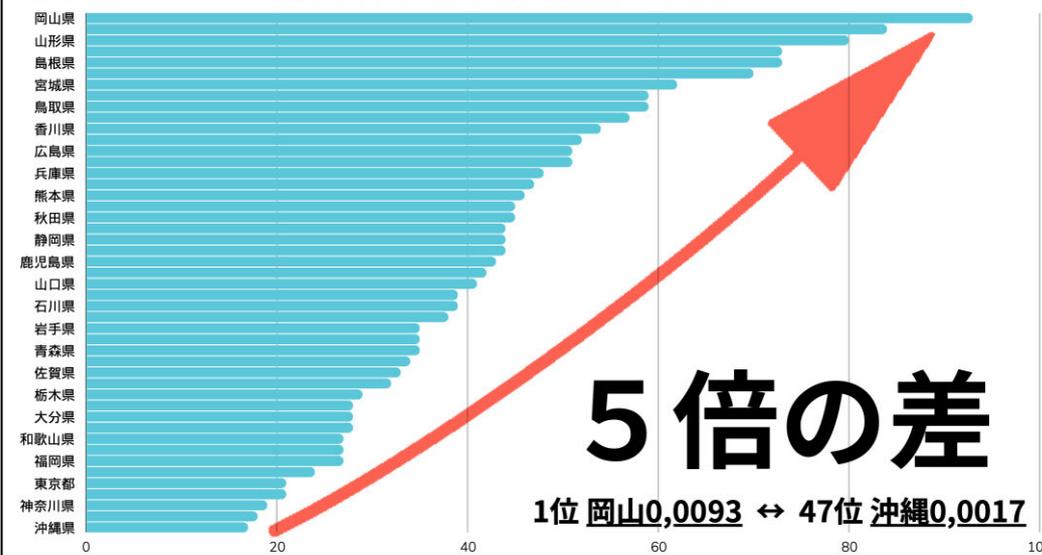
健康経営優良法人2023（中小規模法人部門）都道府県別 認定取得率ランキング



健康経営優良法人2023（中小規模法人部門）都道府県別 認定取得率ランキング



健康経営優良法人2023（中小規模法人部門）都道府県別認定取得率ランキング



健康経営優良法人2024（中小規模法人部門）都道府県別認定取得率

順位	本社所在地の都道府県	計	企業総数	割合
1	岡山県	518	50,112	0.0103
2	愛知県	1871	195,313	0.0096
3	山形県	313	34,593	0.0090
4	島根県	176	19,550	0.0090
5	長野県	552	66,551	0.0083
6	大阪府	2046	261,653	0.0078
7	宮城県	419	56,023	0.0075
8	三重県	345	46,382	0.0074
9	鳥取県	101	14,623	0.0069
10	滋賀県	220	32,195	0.0068
11	広島県	480	77,919	0.0062
12	鹿児島県	281	45,780	0.0061
13	福井県	160	26,868	0.0060
14	香川県	167	28,593	0.0058
15	奈良県	171	30,062	0.0057
16	熊本県	262	46,778	0.0056
17	高知県	123	22,403	0.0055
18	岐阜県	353	64,426	0.0055
19	兵庫県	728	134,030	0.0054
20	徳島県	126	23,237	0.0054
21	静岡県	576	108,727	0.0053
22	福島県	282	53,235	0.0053
23	秋田県	144	29,042	0.0050
24	群馬県	288	58,555	0.0049

順位	本社所在地の都道府県	計	企業総数	割合
25	山口県	162	34,128	0.0047
26	石川県	174	36,839	0.0047
27	北海道	614	131,874	0.0047
28	青森県	166	35,887	0.0046
29	京都府	346	74,822	0.0046
30	佐賀県	98	22,383	0.0044
31	富山県	137	31,390	0.0044
32	新潟県	276	67,093	0.0041
33	愛媛県	159	39,605	0.0040
34	茨城県	290	72,818	0.0040
35	山梨県	111	28,526	0.0039
36	岩手県	126	33,245	0.0038
37	栃木県	192	53,541	0.0036
38	和歌山県	105	31,817	0.0033
39	大分県	103	31,967	0.0032
40	福岡県	420	130,936	0.0032
41	長崎県	119	38,236	0.0031
42	宮崎県	99	31,861	0.0031
43	東京都	1156	419,013	0.0028
44	千葉県	286	114,104	0.0025
45	沖縄県	109	44,368	0.0025
46	神奈川県	449	183,675	0.0024
47	埼玉県	334	150,113	0.0022

ACTION!健康経営：健康経営優良法人2024
中小企業庁：中小企業の企業数

解析メンバー



慶應義塾大学総合政策学部
教授 島津 明人 氏



産業医科大学産業保健経営学
准教授 永田 智久 氏



新潟大学大学院医歯学総合研究科
医学系客員研究員 木村大地

文献 レビュー



職場の健康増進プログラムへの投資効果

「健康経営はペイする」

■病欠損失を減らし3年で投資回収

Health Aff 29:304,2010（22本の研究まとめ）

■医療費、病欠損失とも約25%減少

Am J Health Promot 26:1,2012（62本の研究まとめ）

■労災保険費の平均32%減少

Am J Health Promot 28:347,2014

■投資収益率(ROI)138%

Am J Health Promot 28:347,2014

(ROI: return of investment = (利益 - プログラムコスト) / プログラムコスト)

仮説

健康経営を推進すると
社員の生産性向上と業績向上につながる

分析概要

概要	協力者
<p>1. 健康経営推進に関する中小企業データを沖縄県と全国で比較</p> <ul style="list-style-type: none">○ 全国健康経営度調査票内容を解析 <p>2. 沖縄県内企業の健康経営の効果を検定</p> <ul style="list-style-type: none">○ 県内3企業の健診等のデータを解析	<p>1. 全国比較分析</p> <ul style="list-style-type: none">○ 経済産業省ヘルスケア産業課○ 内閣府沖縄総合事務局 <p>2. 沖縄県内企業分析</p> <ul style="list-style-type: none">○ A社、R社、M社

結果①：健康経営推進に関する中小企業データ

解析対象データ

- 受領データ：2019～2023までデータ、使用データ：2020～2023のデータ
- データ変換：複数問診は二値化、目的変数と説明変数の向き統一、空白の処理
- データ分析：健康経営のパフォーマンス（企業に与える影響）を主な分析とした

分析方法

1. 差の検定

- ブルンナー＝ムンツェル検定で、連続認定企業と非認定企業の2群を選択し、差の検定を行う。

■ 正規性も等分散性も成り立たないデータであるため

2. 傾向スコアマッチングした群の比較(差の検定) または、回帰分析

- 傾向スコアの計算は、二項ロジスティクス回帰で傾向スコアを推定

○ 傾向スコアマッチング手順

- 二項ロジスティクス回帰モデルを用いて、傾向スコアを算出
- 傾向スコアの近い企業同士をマッチング

○ 被説明変数と説明変数

- 4年連続認定企業ダミー (DCont.Firm)
- 従業員規模 (LNEMP)、定期健診受診率、喫煙率、都道府県、法人格 (TYPE)、産業分類 (IND)、標準産業分類 (IND2)、調査年 (YEAR)

	企業数	企業年
全体	21,114	50,273
4年連続認定企業	6,443	25,772
4年連続非認定企業	14,671	24,501
3年認定企業 (再掲)	2,902	8,706
2年認定企業 (再掲)	4,026	8,052
1年認定企業 (再掲)	7,743	7,743

	企業数	企業数	企業数
マッチング前	10,902	4年認定企業数	5,950
		4年非認定企業数	4,952
マッチング後	7,852	4年認定企業数	3,926
		4年非認定企業数	3,926

結果①：健康経営推進に関する中小企業データ

結果説明：効果の実感（主観的評価）

- 「企業が実感した健康経営を取り組んだ効果」について、連続認定企業と非連続認定企業の群間に差があるかどうかの検定結果

質問項目	2020	2021	2022	2023
組織の活性化	+	+	+	+
人材の採用	+	+	+	+
企業業績の向上	+	+	+	+
企業ブランドイメージの向上	+	+	+	+
顧客満足度の向上	+	+	+	+
リスクマネジメントの強化	+	+	+	+
従業員のモチベーション・エンゲージメントの向上	+	+	+	+
従業員の生産性の向上	+	+	+	+
従業員の健康状態の改善	+	+	+	+
従業員の生活習慣や健康に関するリテラシーの改善・向上	+	+	+	+
従業員間のコミュニケーションの改善・促進	+	+	+	+
過重労働の抑制・防止/ワークライフバランスの醸成	+	+	+	+
雇用の防止	+	+	+	+
その他	+	+		
特に効果は実感していない			-	-

結果まとめ

- 連続認定企業は、各項目において、非連続認定企業より効果を実感している。

- 組織活性化、人材採用、企業業績の向上、ブランドイメージ向上、顧客満足度向上、リスクマネジメント強化、従業員モチベーション・エンゲージメント向上、生産性向上、健康状態改善、生活習慣リテラシー向上、コミュニケーション改善、過重労働の抑制、離職防止
 - 「+」と書いたところは、連続企業が非連続企業より効果を実感している
 - 「-」と書いたところは、連続企業が非連続企業より実感していない
 - 2022,2023年の「特に効果を実感していない」の「-」は「非連続認定企業が連続認定企業より効果を実感していない」という意味なので、言い換えると、連続認定企業は、非連続認定企業より効果を全体的に実感しているともいえる。

結果①：健康経営推進に関する中小企業データ

結果説明：財務効果

- 「健康経営を取り組んだ財務効果」について、連続認定企業とそうでない企業の間に差があるかどうかの検定の結果

指標	2020	2021	2022	2023
資本金	+	+	+	+
売上	+	+	+	+
営業利益	+	+	+	+
ROE (株主資本利益率)				
ROS (売上高利益率)				
資本金の差		-		-
売上の差				-
営業利益の差				
ROEの差				
ROSの差				
売上の差 (外れ値除外)				
営業利益の差 (外れ値除外)				
ROEの差 (外れ値除外)				
ROSの差 (外れ値除外)				

結果まとめ

- 連続認定企業は、非連続認定企業より「資本金・売上高・営業利益」ともに有意に高い
 - ただし、2021年と2023年の差の検証を見てみると、「連続認定企業の資本金・売上高は非連続認定企業より低い」つまり、パフォーマンスが悪い？という結果も出ている。
 - 外れ値の影響があるので、外れ値検定をして、外れ値排除したあとのサンプルでは有意な差が見られなかったため、業績の差を用いて、効果の差の検証では、有意な差があると言えなかった。
 - 中小企業の調査であっても、比較的規模の大きい企業が認定されやすいことも推察される。

結果①：健康経営推進に関する中小企業データ

結果説明：実際の効果の検証

- 「健康経営を取り組んだ財務効果」について、それぞれの企業群の効果がゼロと差があるかどうかを検定

指標	連続認定企業		非連続認定企業	
	符号	有意確率	符号	有意確率
ROE（株主資本利益率）	+	**	+	
ROS（売上高利益率）	-		+	**
売上の差	+	**	+	**
営業利益の差	-		-	**
ROEの差	-		-	**
ROSの差	-	*	-	**

結果まとめ

- 連続認定企業は、非連続認定企業より「資本金・売上高・営業利益」とともに、有意に高い
 - ROEとROSはそのままの数値を用いた検証で、連続認定企業は約6,000件、非連続企業は、約5,000件。
 - 連続認定企業では、ROEが正で有意。一方、非連続企業はROSが正で有意となっている。
 - 数値の差による効果検証について、売上の差がプラスだが、営業利益・ROE・ROSともにマイナスとなる。
 - これは、コロナや物価高によって、企業の業績が悪化したと考えると良い
 - ただ連続企業の効果が有意でないので、連続企業のほうが効果があるかもしれない。

結果①：健康経営推進に関する中小企業データ

解析対象データの課題

1) 経年での比較効果検証が不可 仕様が頻繁に変更する	<ul style="list-style-type: none"> 社会背景トレンドや検討委員会における内容を反映した調査票 毎年度、仕様変更を行うと経年比較の効果検証ができない。 同じ仕様は最低3年（基本5年以上は固定してほしい）追加項目は別途明記
2) 認定群と非認定群の差異分が不可 非認定企業のデータがない	<ul style="list-style-type: none"> 本来の分析目的は、「認定企業のパフォーマンス」を測りたいはずなので、最も有効なのは、認定群と非認定群の差異分析となる 今回の受領データは、認定された企業のデータのみで分析する
3) 健康経営の効果指標が少ない 認定基準が分からない	<ul style="list-style-type: none"> 研究デザイン検討の結果、マッチドペア・傾向スコアマッチングをすることとした。 本来認定の基準が必要だが、基準非公開のため、恣意的ではあるが我々が基準を設定した。 従業員への健康投資とは何か。「それぞれの効果の定義が必要」（数値化可能項目は入れるべき） <ul style="list-style-type: none"> 「健康経営」とは、従業員等の健康管理を経営的な視点で考え、戦略的に実践することです。企業理念に基づき、<u>従業員等への健康投資を行うことは、従業員の活力向上や生産性の向上等の組織の活性化をもたらすし、結果的に業績向上や株価向上につながると期待されます。</u> <ul style="list-style-type: none"> 業績及び株価向上の場合 <ul style="list-style-type: none"> 売上・営業利益・経常利益・当期純利益など 従業員の活力及び生産性の場合 <ul style="list-style-type: none"> 従業員あたり売上高・従業員あたり利益 組織の活性化及び安定化の場合 <ul style="list-style-type: none"> 離職率や休職率など

結果②：沖縄県内企業の健康経営の効果

		A社	M社	R社
従業員数		44名	9名	1,345名
データ提供可否	健診（定期）人間ドック	◎2019～2023年（5年分）	◎2021～2023年分（3年分）	◎2018～2022年（5年分）
	ストレスチェック	◎（2019年～2023年分）96回	◎（2022年・2023年）23回	◎2018～2022年（5年分）80回
	エンゲイジメント	—	◎（2022年・2023年分）9回	◎（2022年・2023年分）9回
	プレゼンティーズム	—	◎（2022年・2023年）1回	◎（2022年・2023年分）1回
スケジュール	データ受領日	◎1月9日受領	◎11月28日受領	◎12月13日受領
データ提供方法	個人情報の同意有無	済	済	済
	データの形式	◎CSV	◎PDF	◎Excel
ヒアリング	健康経営開始時期	2021年度より	2019年より	2019年度より
	注力した健康経営施策	主に運動、食事	メタボ対策 禁煙対策、長時間労働を含むメンタルヘルス対策	肥満度率改善と喫煙率の改善に特に注力
	改善効果（主観的評価）	<ul style="list-style-type: none"> 社員の健康に対する意識が向上してきている。 具体的には健保主催の健康イベントへの参加率や個人目標に対する達成率が向上。 特定保健指導受診率も100%、着実に成果がでている。 	<ul style="list-style-type: none"> ブライツ500を含む健康経営優良法人を取得することにつながり受注先から好印象を得て収益に好影響を得ています。 また、従業員の生活習慣の改善に影響を与えヘルスリテラシーの向上を感じています。 	<ul style="list-style-type: none"> 保健師の体感として、肥満度率は改善傾向 喫煙率2019：11.8%⇨2023：6.7%に改善 健康経営施策で、ゴルフチーム、スポーツジム、トレーナーを配置し一定稼働を継続中。 スニーカー運動の増加 採用活動でPRポイントが増加（効果は今後検証が必要）

結果②：沖縄県内企業の健康経営の効果

A社（従業員数44名、2021年度より健康経営推進）

	2020	2021	2022	2023 (※2)
従業員数	30人	33人	38人	29人
平均年齢	43.1歳	41.9歳	40.4歳	37.2歳
女性割合	7%	9%	13%	14%
	18年	20年	22年	

従業員数は30-40人、平均年齢は40歳程度、男性優位の職場

※1 ほとんどの問診の回答データがない人数

※2 22年のデータのある従業員38人のうち12人の従業員がなく、平均年齢が大きく変わっている

結果②：沖縄県内企業の健康経営の効果

A社（従業員数44名、2021年度より健康経営推進）

<健康意識の変化>

Q. 運動や食生活等の生活習慣を改善してみようと思いますか。

	2020	2021	2022	2023
意志なし	14%(4/28人)	17%(5/30人)	6%(2/32人)	11%(3/27人)
意志あり（6か月以内）	32%(9/28人)	30%(9/30人)	53%(17/32人)	41%(11/27人)
意志あり（近いうち）	29%(8/28人)	23%(7/30人)	22%(7/32人)	26%(7/27人)
取組済み（6ヶ月未満）	18%(5/28人)	13%(4/30人)	6%(2/32人)	4%(1/27人)
取組済み（6ヶ月以上）	7%(2/28人)	17%(5/30人)	13%(4/32人)	19%(5/27人)

- 健康経営を機に継続的な取り組みを意識するようになった社員が増えた印象

結果②：沖縄県内企業の健康経営の効果

A社（従業員数44名、2021年度より健康経営推進）

<意識の変化>

Q. 生活習慣の改善について保健指導を受ける機会があれば利用しますか。

	2020	2021	2022	2023
はい	46%(13/28人)	47%(14/30人)	47%(15/32人)	33%(9/27人)

- 様々な健康イベントを開催する中で、自発的な健康行動ができている可能性もある。
- 従業員へのアンケート調査も必要である。

結果②：沖縄県内企業の健康経営の効果

A社（従業員数44名、2021年度より健康経営推進）

<行動の変化>

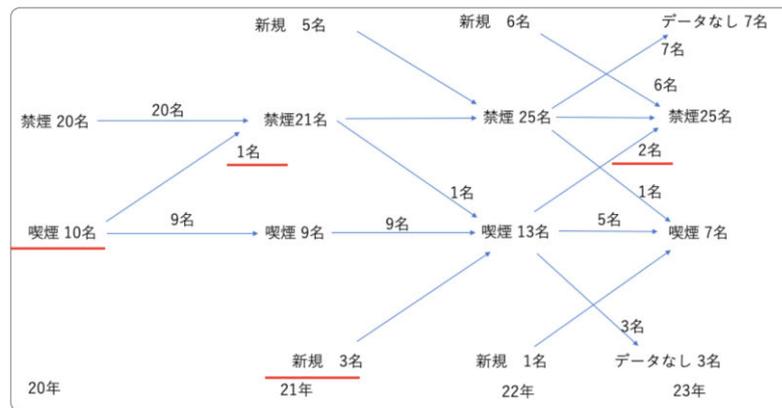
	2020	2021	2022	2023
運動	29%(8/28人)	30%(9/30人)	28%(9/31人)	22%(6/27人)
日常生活上の活動	29%(8/28人)	37%(11/30人)	28%(9/31人)	26%(7/27人)
喫煙	33%(10/30人)	30%(9/30人)	34%(13/38人)	24%(7/29人)
朝食を抜かない	64%(18/28人)	60%(18/30人)	68%(21/31人)	52%(14/27人)
多量飲酒	25%(7/28人)	6%(2/32人)	21%(7/33人)	23%(7/24人)

- 2021年度は改善したが、2022年あたりから若干リバンド気味(特に飲酒)。
 - 2021年度改善は、健康経営開始というインパクト効果及びコロナ影響も考慮が必要

結果②：沖縄県内企業の健康経営の効果

A社（従業員数44名、2021年度より健康経営推進）

<喫煙者の推移>

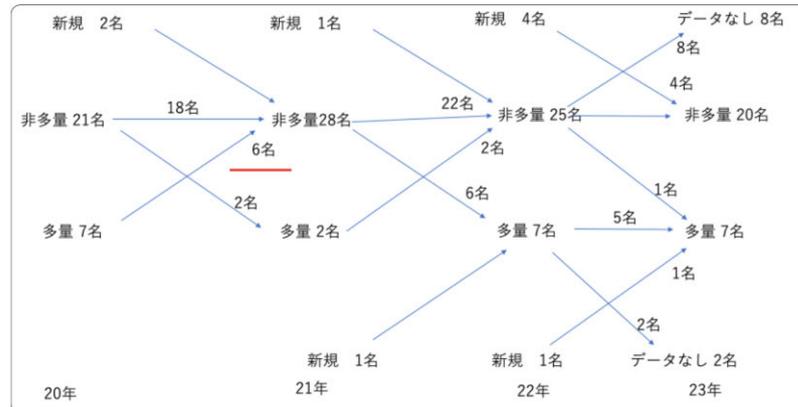


- 2023年の喫煙率の減少は2名の禁煙成功と、3名のデータ欠損の影響

結果②：沖縄県内企業の健康経営の効果

A社（従業員数44名、2021年度より健康経営推進）

< 多量飲酒者の推移 >



- 2021年のみ改善があったが、それ以外は横ばい

結果②：沖縄県内企業の健康経営の効果

A社（従業員数44名、2021年度より健康経営推進）

< 結果の変化 >

	2020	2021	2022	2023
適正体重以外	20%(24/30人)	24%(25/33人)	24%(9/38人)	21%(23/29人)
非肥満者	20%(24/30人)	21%(26/33人)	24%(9/38人)	21%(23/29人)
血圧140/90以上	17%(5/30人)	0%(0/33人)	5%(2/38人)	7%(2/29人)
(うち内服中)	1/5人	0/0人	1/2人	0/2人
HbA1c 6.5%以上	9%(2/23人)	8%(2/25人)	7%(2/28人)	4%(1/25人)
(うち内服中)	1/2人	0/2人	0/2人	0/2人

- 大きな変化はない

結果②：沖縄県内企業の健康経営の効果

A社（従業員数44名、2021年度より健康経営推進）

< まとめ >

- 集計したデータのみからの印象では、健康経営によって取り組みが継続できる人が一定数増えたことは良い一方、全体感としては、数値上での行動の変化、結果の変化にまではまだ繋がっていない段階である。
- 次のステップとしては、引き続き健康経営推進の目的の継続的な発信とともに、社内で活動できている人からの良好事例の共有、継続するための人との繋がりなどを通じ、行動に繋がるための方法の検討が必要である。

結果②：沖縄県内企業の健康経営の効果

		A社	M社	R社
従業員数		44名	9名	1,345名
データ提供可否	健診（定期）人間ドック	◎2019～2023年（5年分）	◎2021～2023年分（3年分）	◎2018～2022年（5年分）
	ストレスチェック	◎（2019年～2023年分）96回	◎（2022年・2023年）23回	◎2018～2022年（5年分）80回
	エンゲイジメント	—	◎（2022年・2023年分）9回	◎（2022年・2023年分）9回
	プレゼンティーズム	—	◎（2022年・2023年）1回	◎（2022年・2023年分）1回
スケジュール	データ受領日	◎1月9日受領	◎11月28日受領	◎12月13日受領
データ提供方法	個人情報の同意有無	済	済	済
	データの形式	◎CSV	◎PDF	◎Excel
ヒアリング	健康経営開始時期	2021年度より	2019年より	2019年度より
	注力した健康経営施策	主に運動、食事	メタボ対策 禁煙対策、長時間労働を含むメンタルヘルス対策	肥満度率改善と喫煙率の改善に特に注力
	改善効果（主観的評価）	・社員の健康に対する意識が向上してきている。 ・具体的には健保主催の健康イベントへの参加率や個人目標に対する達成率が向上。 ・特定保健指導受診率も100%、着実に成果がでている。	・フライト500を含む健康経営優良法人を取得することにつながり受注先から好印象を得て収益に好影響を得ています。 ・また、従業員の生活習慣の改善に影響を与えヘルスリテラシーの向上を感じています。	・保健師の体感として、肥満度率は改善傾向 ・喫煙率2019：11.8%⇨2023：6.7%に改善 ・健康経営施策で、ゴルフルーム、スポーツジム、トレーナーを配置し一定稼働を継続中。 ・スニーカー通勤の増加 ・採用活動でPRポイントが増加（効果は今後検証が必要）

結果②：沖縄県内企業の健康経営の効果

M社（従業員数10名程度、2019年度より健康経営推進）

- ・ 問診項目結果がないため、生活習慣の意識変化および行動変化の結果解析は未実施
- ・ 健診結果の変化については、3年分の健康診断個人票のみ。
 - 簡易比較を行った限りでは、数値的に大きな変化は認めず。
- ・ 下記の解析を実施。
 - ストレスチェック
 - ワークエンゲイジメント
 - プレゼンティーズム

結果②：沖縄県内企業の健康経営の効果

M社（従業員数10名程度、2019年度より健康経営推進）

<ワークエンゲイジメントの一年後の変化(2022と2023の比較)>

	上昇	変化なし	低下
UWES-9	3人	7人	0人

<プレゼンティーズムの一年後の変化(2022と2023の比較)>

	改善	変化なし	悪化
SPQ (毎月回答結果の年間平均より算出)	6人	4人	0人

- ・ ワークエンゲイジメントとプレゼンティーズムともに改善している人が、複数存在。
- ・ ストレスチェック結果が改善していた人が、プレゼンティーズムも改善していた。
- ・ ワークエンゲイジメントも、3人中2人は運動して改善していた。

結果②：沖縄県内企業の健康経営の効果

		A社	M社	R社
従業員数		44名	9名	1,345名
データ提供可否	健診(定期)人間ドック	◎2019～2023年(5年分)	◎2021～2023年分(3年分)	◎2018～2022年(5年分)
	ストレスチェック	◎(2019年～2023年分)96回	◎(2022年・2023年)23回	◎2018～2022年(5年分)80回
	エンゲイジメント	—	◎(2022年・2023年分)9回	◎(2022年・2023年分)9回
	プレゼンティーズム	—	◎(2022年・2023年)1回	◎(2022年・2023年分)1回
スケジュール	データ受領日	◎1月9日受領	◎11月28日受領	◎12月13日受領
データ提供方法	個人情報の同意有無	済	済	済
	データの形式	◎CSV	◎PDF	◎Excel
ヒアリング	健康経営開始時期	2021年度より	2019年より	2019年度より
	注力した健康経営施策	主に運動、食事	メタボ対策 禁煙対策、長時間労働を含むメンタルヘルス対策	肥満度率改善と喫煙率の改善に特に注力
	改善効果(主観的評価)	・社員の健康に対する意識が向上してきている。 ・具体的には健保主催の健康イベントへの参加率や個人目標に対する達成率が向上。 ・特定保健指導受診率も100%、着実に成果がでている。	・ブライト500を含む健康経営優良法人を取得することにつながり受注先から好印象を得て収益に好影響を得ています。 ・また、従業員の生活習慣の改善に影響を与えヘルスリテラシーの向上を感じています。	・保健師の体感として、肥満度率は改善傾向 ・喫煙率2019:11.8%⇨2023:6.7%に改善 ・健康経営施策で、ゴルフルーム、スポーツジム、トレーナーを配置し一定稼働を継続中。 ・スニーカー運動の増加 ・採用活動でPRポイントが増加(効果は今後検証が必要)

結果②：沖縄県内企業の健康経営の効果

R社(従業員数1,345名、2019年度より健康経営推進)

	2018	2020	2022
従業員数	1,393人	1,502人	1,652人
平均年齢	40.9歳	43.1歳	42.7歳
10-20歳代	21%	19%	20%
30歳代	26%	25%	23%
40歳代	25%	23%	21%
50歳代	28%	29%	29%
60歳代	1%	4%	8%
女性割合	53%	54%	54%
問診欠損者数※	400人	345人	394人

- ・平均年齢は上がっており、60歳代も8%に増加
- ・女性割合は約半数
- ・健康診断データと問診回答内容を従業員IDで紐付けを行い、データベース化。
 - 問診欠損者数が多い。未回答者も一定数存在。
 - 健診データの数と、健診倶楽部+特定健診の問診票の合計数がそもそも大きく異なっているようである

結果②：沖縄県内企業の健康経営の効果

R社(従業員数1,345名、2019年度より健康経営推進)

<健康意識の変化>

Q. 運動や食生活等の生活習慣を改善してみようと思いませんか。

	2018 (908人)	2020 (1136人)	2022 (1246人)
改善するつもりはない	17%(153/908人)	16%(179/1136人)	11%(133/1246人)
改善するつもりである(概ね6ヶ月以内)	36%(326/908人)	34%(383/1136人)	35%(439/1246人)
近いうちに(概ね1ヶ月以内)改善するつもりであり、少しずつ始めている	21%(195/908人)	20%(228/1136人)	20%(245/1246人)
すでに改善に取り組んでいる(6ヶ月未満)	15%(135/908人)	17%(192/1136人)	17%(211/1246人)
すでに改善に取り組んでいる(6ヶ月以上)	11%(99/908人)	14%(154/1136人)	17%(218/1246人)

- ・健康意識が向上している
 - 継続的に取り組んでいる人の割合が増加傾向にある
 - 改善する意識のない人が低下傾向にある

結果②：沖縄県内企業の健康経営の効果

R社（従業員数1,345名、2019年度より健康経営推進）

<健康意識の変化>

Q、生活習慣の改善について保健指導を受ける機会があれば利用しますか。

	2018	2020	2022
はい	45%(445/990人)	45%(522/1,155人)	43%(532/1,250人)

- ・ 特段変化はなし

結果②：沖縄県内企業の健康経営の効果

R社（従業員数1,345名、2019年度より健康経営推進）

<健康行動の変化>

	2018	2020	2022
運動	17%(145/860人)	22%(230/1,042人)	20%(246/1,250人)
日常生活上の活動	22%(191/865人)	39%(408/1,053人)	27%(332/1,249人)
喫煙	15%(149/993人)	11%(129/1,157人)	9%(116/1,257人)
多量飲酒	32%(319/989人)	35%(286/810人)	22%(269/1,246人)

- ・ 運動習慣はコロナ後に向上しているが、継続への取り組みが重要か。
- ・ 喫煙率は確実に減少している。継続的な保健指導や禁煙対策が奏功か。
 - 健康経営度調査票の記載によると、2019年11.8%（182名）、2020年9.8%（139名）、直近の2022年7.6%（110名）
- ・ 多量飲酒は2024年度に改善を認めている。
 - 集計方法が国民栄養調査とは違うものの、全国平均よりも高めであった。
 - 2024年2月19日に飲酒ガイドラインが公開され、より飲酒量への意識が必要となると考えられる。

結果②：沖縄県内企業の健康経営の効果

R社（従業員数1,345名、2019年度より健康経営推進）

<結果の変化>

	2018	2020	2022
適正体重	62%(869/1393人)	64%(956/1502人)	62%(1029/1652人)
BMI25以上	30%(411/1393人)	30%(448/1502人)	30%(492/1160人)

- ・ 2018年と比較して平均年齢は上がっているが、大きな変化なく推移していることは一定の成果である可能性がある。
 - 【参考】平均年齢 2018：40.9歳→2020：43.1歳→2022：42.7歳

結果②：沖縄県内企業の健康経営の効果

R社（従業員数1,345名、2019年度より健康経営推進）

< 結果の変化 >

	2018	2020	2022
血圧140/90以上	173/1393(12.4%)	213/1502(14.2%)	262/1652(15.9%)
血圧160/100以上	53/1393(3.8%)	48/1502(3.2%)	55/1652(3.3%)
HbA1c 6.5%以上	37/1387(2.7%)	51/1496(3.4%)	50/1632(3.1%)
HbA1c 8.0%以上	12/1387(0.9%)	14/1496(0.9%)	10/1632(0.6%)

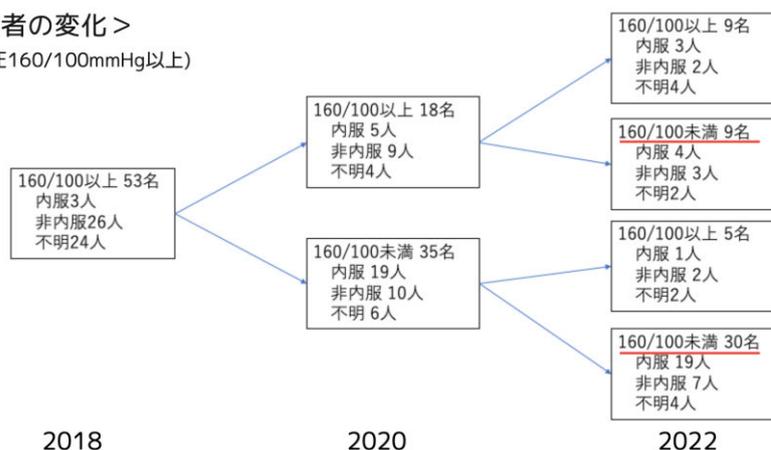
- 50歳以上の割合が増えていることから、有所見が微増することはやむを得ない。
- しかし、**ハイリスクへのアプローチは進んでいる印象にある**(次ページ)。
 - 血圧160/100以上のうち、内服者は20年30%(10/33人, 欠損15人)、22年39%(7/37人, 欠損18人)
 - HbA1c 8.0%以上のうち、内服者は20年86%(12/14人, 欠損1)、22年63%(5/8人, 欠損2)

結果②：沖縄県内企業の健康経営の効果

R社（従業員数1,345名、2019年度より健康経営推進）

< 高血圧対象者の変化 >

II度高血圧(血圧160/100mmHg以上)



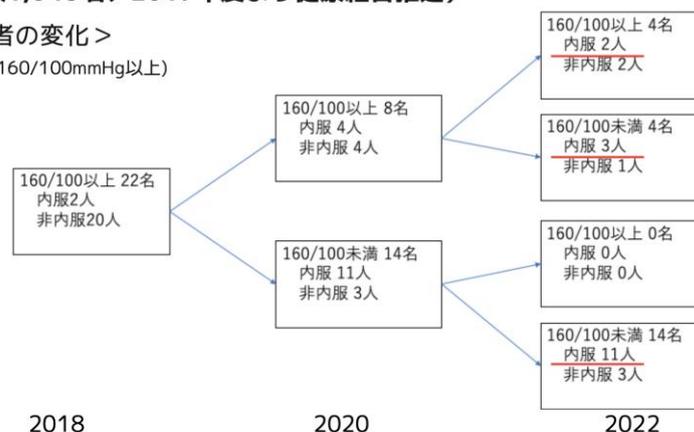
- 2018年と比較し、2022年には53人のうち**39人(74%)**が160/100mmHg未満に移行。
- 不明者の数が多いため断言はできないが、経年の対応により内服者が増え、改善が進んでいる印象

結果②：沖縄県内企業の健康経営の効果

R社（従業員数1,345名、2019年度より健康経営推進）

< 高血圧対象者の変化 >

II度高血圧(血圧160/100mmHg以上)



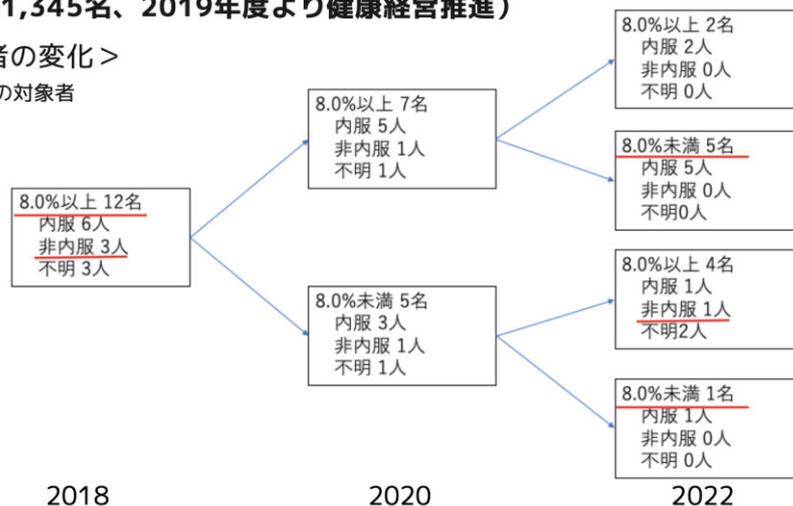
- 内服歴全データがある22人を検証。内服者2018年は22人中2人(9%)→2022年は**22人中16人(73%)**に改善
- 160/100mmHg以上対象者は2018年に22人から、2022年は4人に改善
 - ハイリスクの従業員に対する対策として、保健指導等の効果が認めている可能性が考えられる。

結果②：沖縄県内企業の健康経営の効果

R社（従業員数1,345名、2019年度より健康経営推進）

<高血糖対象者の変化>

HbA1c8.0以上の対象者



- 2020年にHbA1cが8.0%以上が12人いたが、2022年には6人が8.0%未満に移行（半減）。
- 2022年には非内服者も1人に減少していることも印象的である
- ハイリスクの従業員に対する対策として、保健指導等の効果が認めている可能性が考えられる。

結果②：沖縄県内企業の健康経営の効果

R社（従業員数1,345名、2019年度より健康経営推進）

<ワークエンゲイジメントの変化>

2022,2023年の2年分解析

2022年平均	2023年平均
4.80	4.84



- 上位20%以上（6.3以上）で、2022年19.9%から、2023年21.4%と、若干の増加が認められる

結果②：沖縄県内企業の健康経営の効果

R社（従業員数1,345名、2019年度より健康経営推進）

<まとめ>

- 今回の調査事項のみだが、ハイリスクアプローチ、ポピュレーションアプローチ共に一定の効果を認められた。
- 40歳以上と39歳以下の健康データベースの整備を行い、健康投資効果の可視化に注力すると、今まで以上に効果の感覚が、数値化され、より一層の従業員の健康度向上につながると考えられる。
- 引き続き、意識や行動の変化および結果の変化を検証し、より一層産業保健領域の保健事業強化および、組織全体の健康経営推進に期待ができる。

(2) 効果指標についての関係者ヒアリング：下記4社にヒアリングを行った。

関係者ヒアリング①

・ 2023年9月15日（金）9時30分～10時35分

(ア)取組状況について

- ① 2019年から健康経営に本格的に取り組んでいる。
- ② トレーナーや栄養士にも協力いただいていた。
- ③ 健康経営の委員会を立ち上げて、3カ月に1回は経営層と健康経営に関するミーティングを行い、施策立案等を行っている。
- ④ 人事部に健康経営の担当者が設置されたことで、進展した。
- ⑤ 健保と健診結果のデータを連携している。
 1. 健保による分析はこれから行う予定である。

(イ)ヒアリング先が感じている、健康経営に関する課題について

- ① 健康経営の取組に関わっている人には、健康経営が浸透していると感じているが、若い人には健康経営が浸透していないのではないかと感じている。
 1. 健康経営は、「会社として取り組んでいる」、「1人1人の為に取り組んでいる」と気付いてもらうにはどうしたらよいか。
 2. この点をクリアできなければ、ホワイト500にはなれないのではないか。
- ② 人事異動が2～3年であるため、取組が組織に根付きにくい。
- ③ トップダウンが最も効果的である。
- ④ 保健師で活動しているが、やっていることは同じことの繰り返しであり、目に見える改善につながっていないように映る。
- ⑤ 経営層との壁を感じている。
- ⑥ 健康経営の取組について説明しきれないから、企業の取組として認めてもらえていないように思う。
- ⑦ エンゲイジメント・プレゼンティーイズム・アブセンティーイズムの3つを継続収集する仕組みを構築しなければならないが、そこは課題である。

(ウ)ヒアリング先のフィードバックに対する当社の見解

- ① 経営層との壁があるように見受けられる。
 1. 保健事業では関与できない、労務関係（「残業時間・休職」の項目）や「経営層の関与」の偏差値が低いことが根拠である。

関係者ヒアリング②

・ 2023年9月26日（火）10時00分～10時50分

(ア)ヒアリング先より

- ① 効果検証はやってみたい。

(イ)ヒアリング先のエンゲイジメント調査について

- ① ストレスチェックの中に簡易的なエンゲイジメント調査の項目を入れている。
 1. 従業員数が50名未満であるため、実施は義務付けられていないが、親会社のグループとして行っている。

関係
者ヒ
アリ
ング

(ウ)現状とそれに対するご意見

- ① 健康経営は、「採用効果」があるとは聞いているが可視化したい。
- ② アプリで健康状態の可視化をしているが、どう本人たちの健康に繋がっているか不明。
- ③ 把握している健康課題は以下の通り。
 1. 脂質が高い。
 2. 血糖値が高い。
 3. 尿酸値が高い。
 4. 睡眠不足
 5. 運動不足
- ④ 車社会で、運動する機会がない。
- ⑤ 「心身健康で100%のパフォーマンスを発揮できる職場環境」をつくりたいと考えている。

関係者ヒアリング③

- ・ 2023年9月26日(火) 11時00分～11時40分

(ア)健康経営への思い

- ① 従業員数が10人の会社であるため、一人でも欠けると大変なことがあるためである。
- ② 明るく楽しく働いてもらいたい、健康で働きやすい職場をつくりたいとずっと思っていた。

(イ)社内にトレーニングマシンを設置した経緯について

- ① 会社の近くにジムができたため、家族も使用できるジムの利用券を配布した。しかし、仕事で疲れた後にジムに足を運ぶことが難しいようであった。したがって、使用していない倉庫にトレーニングマシンを設置し、帰り際等に利用してもらうようにした。

(ウ)効果検証のご要望等について

- ① 肥満等、健診結果に自信はない。健康意識向上のきっかけになればと考える。

関係者ヒアリング④

- ・ 2023年10月2日(月) 13時00分～13時40分

(ア)健康が大切だと社員に伝えるため、健診データを確認するようにしている。

- ① 社員自身は、保険会社が提供している無料アプリで、健診結果の推移を確認できるようにしている。
- ② 会社としては、社員全員分のデータをExcelに手入力し、傾向を把握している。(ストレスチェックも含む)
 1. 全データは社員に公開していないが、傾向は社員に公表している。
 2. 基準は、産業医や保健所からレクチャーを受けている。

(イ)喫煙者ゼロについて

- ① お客様からのアンケートで、たばこのにおいについての意見があった。

- | | |
|--|--|
| | <ul style="list-style-type: none">② 他社の取り組みをまねた。③ 当初は、喫煙者が 200 名以上いたが、2020 年には全員が禁煙に成功した。④ 入社時に、たばこを吸わない旨、一筆書いてもらっている。⑤ 喫煙が発覚した場合、何かしらのペナルティがあると周知している。 |
|--|--|

(3) 研修

<計画>

健康経営を推進している企業の共通課題

- これから健康経営優良法人制度の申請をしたいが、どこから手をつければ良いかわからない
- 健康経営を進めているが、全体的な方向性や自社の健康経営の課題を整理し見直したい
- 健康経営優良法人の申請を毎年行っているが、担当者1人に任せっきりで企業として知識共有ができず人財が育たない
- 他の企業や健康保険組合での取り組みについても学びたい

これらの課題を解決するために・・・

健康経営を推進するための実務担当者向けの研修会を開催する

<実績>

- 健康経営推進に関する企業の経験値に応じ、入門コースと経験者コースの2コースを企画し、実施した。

研修

内閣府沖縄総合事務局 令和5年度地域経済産業活性化対策調査事業

健康経営優良法人の申請前に
健康経営研修会 参加無料 先着順

10月4日(水) 会場：内閣府沖縄総合事務局10階 会議室 (那覇市おもろまち2-1-1)

入門コース	経験者コース			
10:00-12:00	13:30-16:00			
対象 健康経営を始めたばかりの方、 健康経営に関心はあるが、始め方に悩まれている方 (大規模法人・中小規模法人問いません)	対象 健康経営をすでに取り組んでいる方 健康経営優良法人の申請等、健康経営推進でお悩みの方 (大規模法人・中小規模法人問いません)			
参加方法 会場参加 または オンライン参加	参加方法 会場参加のみ			
研修内容 ・健康経営の制度概要、取り組み意義や効果 ・健康経営優良法人の申請の流れ ・健康経営宣言の作成、等	研修内容 ・健康経営戦略マップの作成ノウハウ ・ワークショップを通じて自社の課題解決に繋げる (生活習慣病予防やメンタルヘルス対策等：予定) ・16:00～相談会 (希望制)			
講師  山崎 牧子 経済産業省 ヘルスケア産業課 課長補佐 <経験者コース>	 新垣 清乃 全国健康保険協会 沖縄支部 企画総務グループ長 <入門コース>	 永田 智久 産業医科大学 産業保健経営学 准教授 <両コース登壇>	 島津 明人 慶應義塾大学 総合政策学部 教授 <経験者コース>	 木村 大地 株式会社アイセック 代表取締役CEO <両コース登壇>

お申込み方法・お問い合わせ
9月28日(木)までに右記QRコードから申込を行って下さい。

申込QRコード <https://mm-enquete-cnt.meti.go.jp/form/pub/okinawa-kikakushinkou/kenkomoushikomi>

お問い合わせ 株式会社アイセック TEL:025-378-8858



- 入門コース
 - ✓ 株式会社アイセック 代表取締役 木村 大地
 - ✓ 全国健康保険協会 沖縄支部 企画総務グループ長 新垣 清乃 氏
 - ✓ 産業医科大学産業保健経営学 准教授 永田 智久 氏
- 経験者コース
 - ✓ 株式会社アイセック 代表取締役 木村 大地
 - ✓ 経済産業省 商務・サービスグループ ヘルスケア産業課 課長補佐 山崎 牧子
 - ✓ 慶應義塾大学総合政策学部 教授 島津 明人 氏
 - ✓ 産業医科大学産業保健経営学 准教授 永田 智久 氏

<アンケート結果>

参加方法

設問：参加方法を選択してください【必須】

回答：オンライン参加(Microsoft Teams) or 現地参加

アンケート設問
入門コース：3
入門コースのみ対象



講演内容〈講演の満足度〉

設問：本日の講演の内容はいかがでしたか。【必須】

5段階評価でお願いいたします。

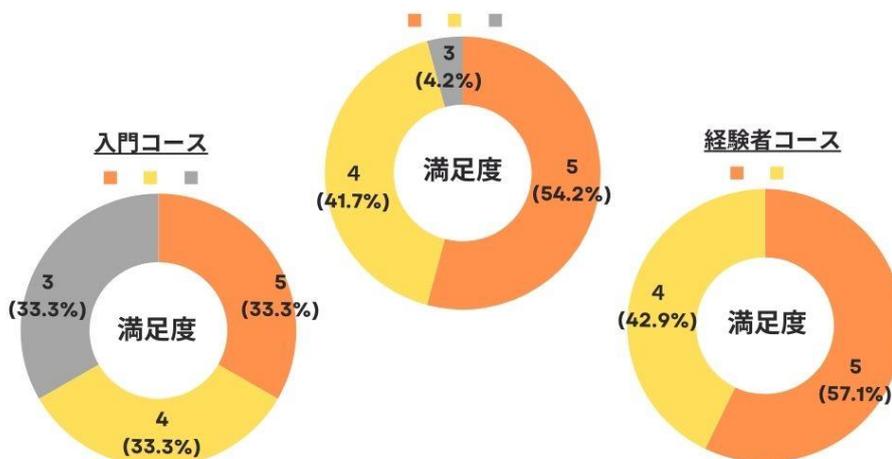
(1：全く満足しなかった～5：とても満足した)

アンケート設問

入門コース：4

経験者コース：3

入門・経験者コース(ALL)

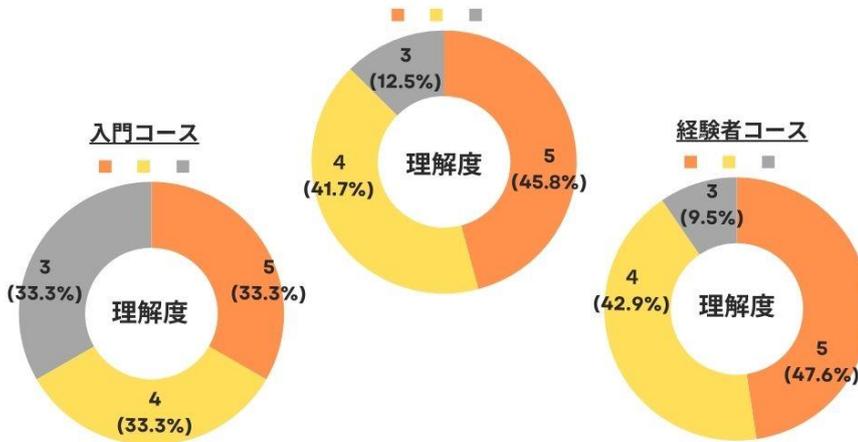


講演内容〈講演の理解度〉

設問：本日の研修会の内容は、分かりやすかったですでしょうか。【必須】5段階評価をお願いいたします。
(1：全く理解できなかった～5：とても理解できた)

アンケート設問
入門コース：5
経験者コース：4

入門・経験者コース(ALL)



講演内容〈講演の理解度〉のコメント：入門コース

- 健康経営の意義と、実施する事でもたらされるメリット等について学ぶことができました。

講演内容〈講演の理解度〉のコメント：経験者コース

- ワークが良かったです
- 戦略マップという新しい考え方が分かり勉強になりました。
- 健康経営についての研修を受けて、取り組みに対する指標もなく行っており、改めて健康経営に対する理解が深まった。
- 弊行の健康事業に関しては、多様な取り組みは行ってはいましたが、評価の部分が難しく、実施者のニーズが優先してしまい、どうなりたいかとか具体的な目的が少なかった事に気がつかされました。本日はプロセス評価や行動評価などの手法のヒントが沢山ありました。

健康意識を測るものは難しい所、指標の取り方の検討に繋ぐことができそうです。

- 健康経営に取り組む意義、目的を従業員へ浸透させ、自社が健康経営に取り組むことによって本当の意味で従業員の健康度がアップするために必要な施策をしっかりと考えていかなければいけないな、と感じました。
- 詳細な資料もあり説明していただき大変参考になりました。
- 今回は学びの多い研修会をありがとうございました。永田先生のお話から指標と評価の重要性を再確認し、今までの私達の施策はここが十分でなかったと気付かされました。

プランの段階から、評価をデザインしていくという新たな学びがあり今後の活動に活かしていきたいです。島津先生の講義でも、最後の相談会のような全員と質疑応答できたらより良かったなあと思いました。

- 戦略マップの書き方や回答のコツ等、実践的で大変参考になる内容ばかりでした。

とても分かりやすく丁寧に説明して頂き、ありがとうございました。

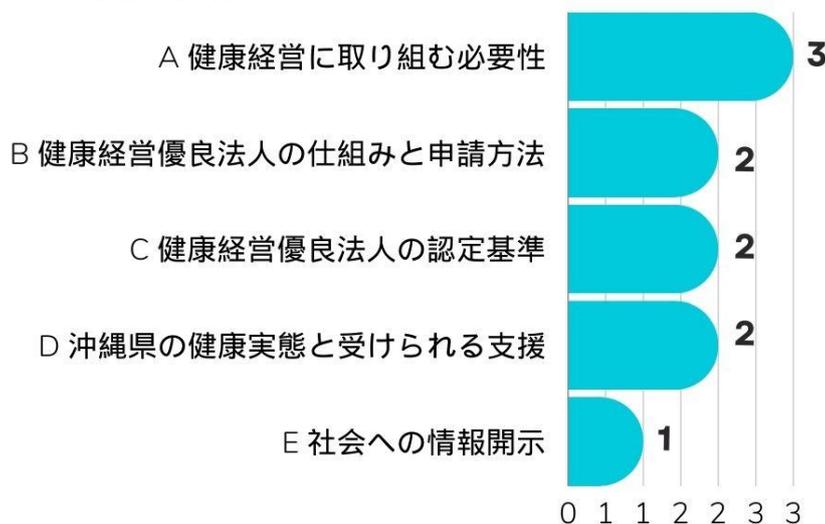
- 健康経営に取り組む意義や、職員の皆さんにどうなって欲しいのか、今取り組んでいる施策は何のためにやっているのか等、改めて振り返るきっかけとなりました。
- 具体的な内容で良かった。
- 内容の充実した研修でした。

- 勉強不足でスピード感についていけない部分があったため
- 内容がとても多かったので、もう少しゆっくりと講義が受けられればと思いました
- 進行スピードが早かった
- 初心者には戦略マップの作成が難しかった。
- 結構難しい用語も多かったので、理解するまでに時間がかかったため。

参考になった研修内容

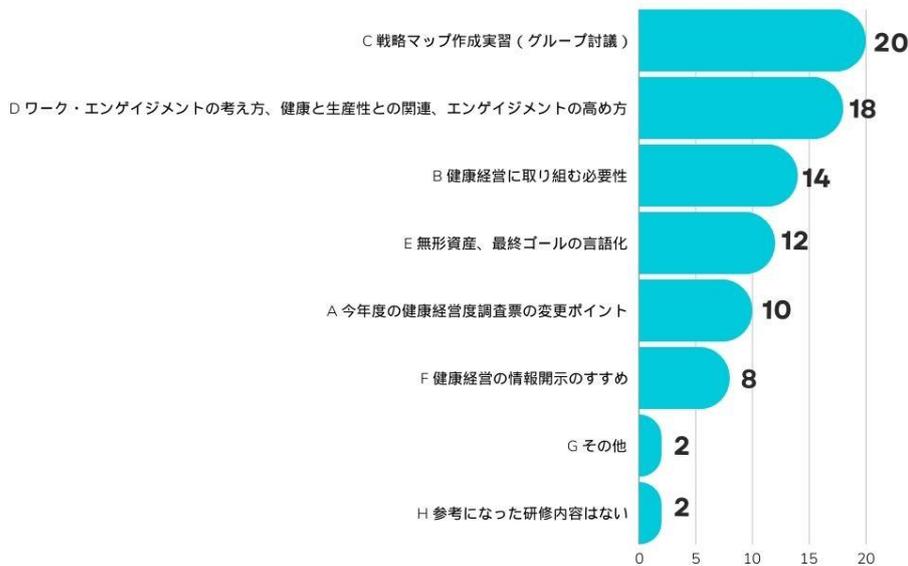
アンケート設問
入門コース：7

設問：参考になった研修内容を選択してください。【必須】入門コースのみ対象
(複数選択可)



参考になった研修内容

アンケート設問
経験者コース：6
経験者コースのみ対象



参考になった研修内容のコメント：経験者コースは 12

- 選択肢：BCD
取り組む姿勢が足りなかったり、取り組んだ後の評価もしていなかったり等、健康経営推進に対する反省を受けた。
- 選択肢：CDE
マップの作成の仕方も参考となりました。
- 選択肢：ABCDEF
POS という概念を知ることができ、参考になりました。
- 選択肢：ACD
グループセッションは異業種の交流が出来、同じ悩みの共有ができました。
- 選択肢：ABCDEF
最近、健康経営に関する業務に携わることになり知識が余り無い状態だったので全てが大変参考になった。
- 選択肢：ABCE
全く考えていなかった事項であったため。理解度は低いですが、参考になった。
- 選択肢：ABCDEF
効果検証の集計や回答のコツ
- 選択肢：CD
戦略マップ作成にあたってちょうど行き詰まっていたためありがたいお話でした。
- 選択肢：ABCDEF
効果検証までできていないことが課題としてあるので、今回の研修での学びを活かし取り組んでいきたい。ワークエンゲイジメントについて理解が深まった。

- 選択肢：BCD
他の企業さんと意見交換出来た。
- 選択肢：ABCDEF
色々と気づきの多い研修でした。
- 選択肢：CD
戦略マップやワークエンゲイジメントの考え方は初めて学んだので、とても為になりました！

取り上げて欲しいテーマ〈その1〉

設問：2024年3月にシンポジウムを行う予定です。

その際、取り上げてほしいテーマを選択してください。

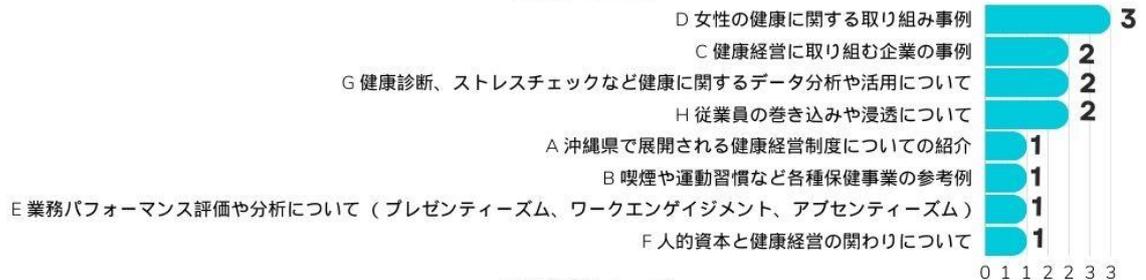
(複数選択可) 【必須】

アンケート設問

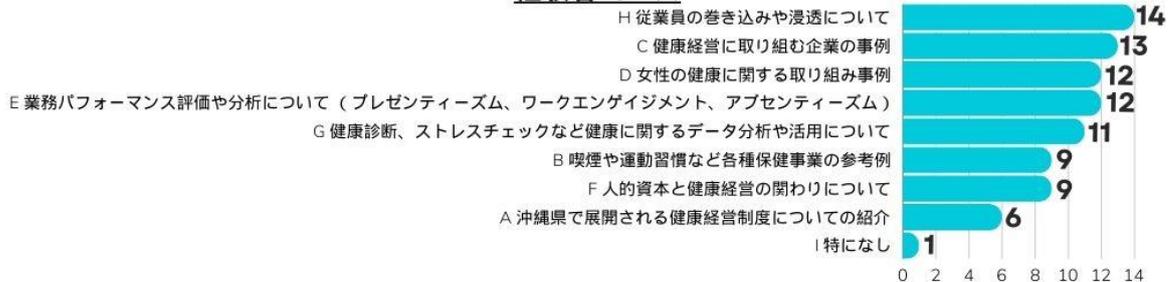
入門コース：9

経験者コース：11

入門コース



経験者コース

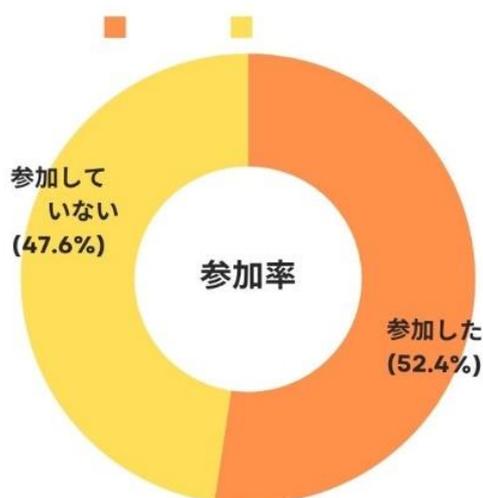


・相談会開催について

相談会に参加したか

設問：相談会に参加されましたか。【必須】

アンケート設問
経験者コース：8
経験者コースのみ対象



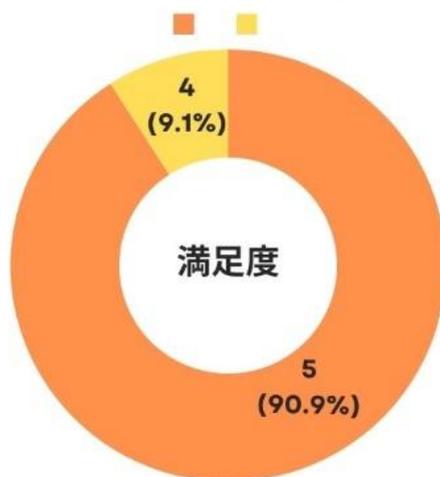
相談会内容〈相談会の満足度〉

設問：相談会の内容はいかがでしたか。【必須】

5段階評価をお願いいたします。

(1：全く満足しなかった～5：とても満足した)

アンケート設問
経験者コース：9
経験者コースのみ対象



相談会内容〈相談会の満足度〉の理由のコメント

- 満足度：5
他社様の取り組み状況等も伺うことができました。
- 満足度：5
質問しやすい規模の参加者数だったので、良かったです。
- 満足度：5
個別の質問は共通しておりましたので検討し自社でも取り入れて行きたいです。
- 満足度：5
色々な疑問点が解消できた。他社の悩みも共感できたし、参考になった。

- 満足度：5
他社様からの質問をきくことで、自分達には無かった着眼点に気づくことができました。
- 満足度：5
他企業様も同じ内容で質問されており、大変勉強になりました。悶々と考え、悩んでいたのが皆様に勇気づけられました。
- 満足度：5
丁寧に教えていただきました。
- 満足度：5
他社さんの取り組みについて知ることができたり、皆似たような課題疑問があると思うので共有してすることが学びに繋がった。
- 満足度：4
他の企業の健康推進担当者の悩みや、健康経営優良法人の申請に関するポイントなどを一緒に確認できたので良かったです！

取り上げて欲しいテーマ〈その1〉

設問：2024年3月にシンポジウムを行う予定です。

その際、取り上げてほしいテーマを選択してください。

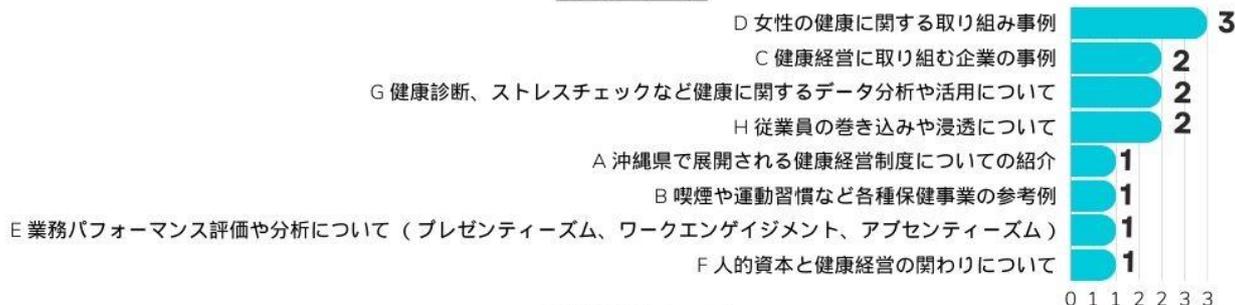
(複数選択可) 【必須】

アンケート設問

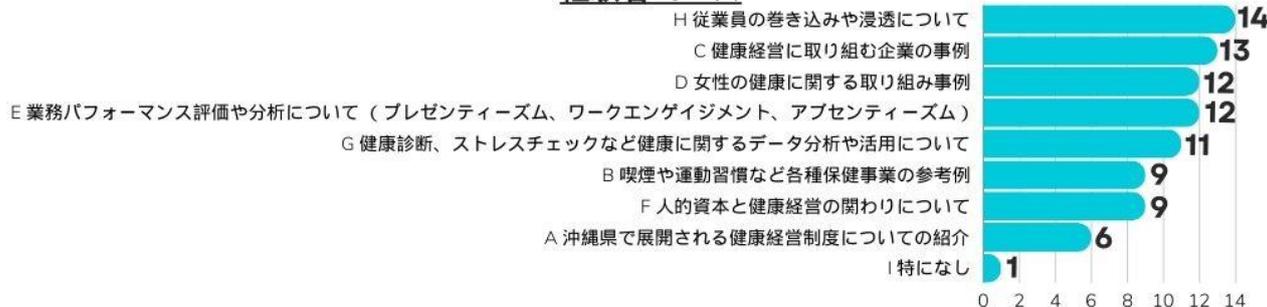
入門コース：9

経験者コース：11

入門コース



経験者コース



取り上げて欲しいテーマ〈その2〉

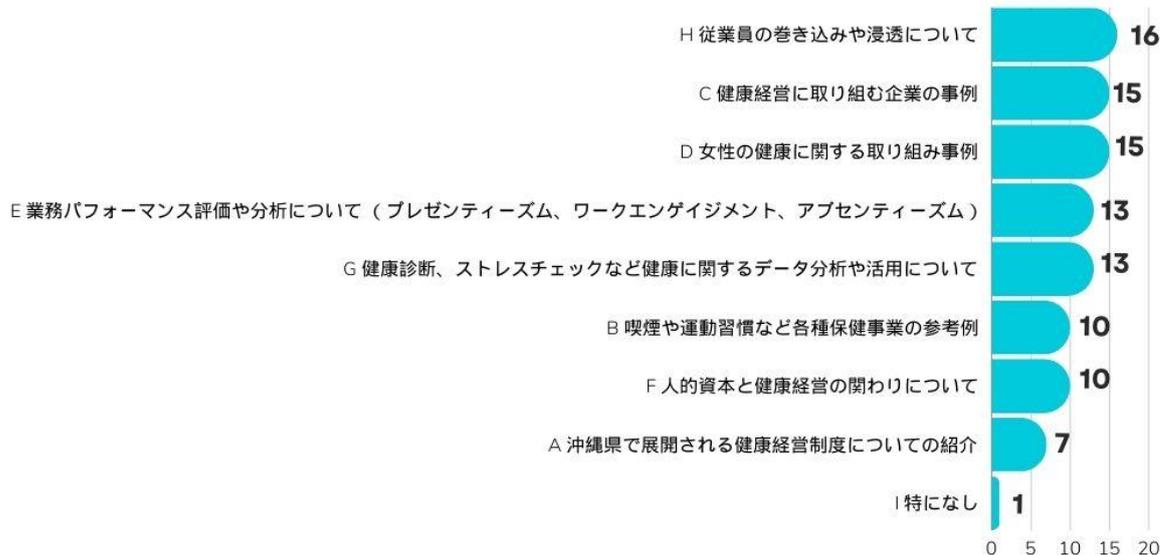
設問：2024年3月にシンポジウムを行う予定です。

その際、取り上げてほしいテーマを選択してください。

(複数選択可) 【必須】

アンケート設問
 入門コース：9
 経験者コース：11

入門・経験者コース(ALL)



今後の要望〈その1〉

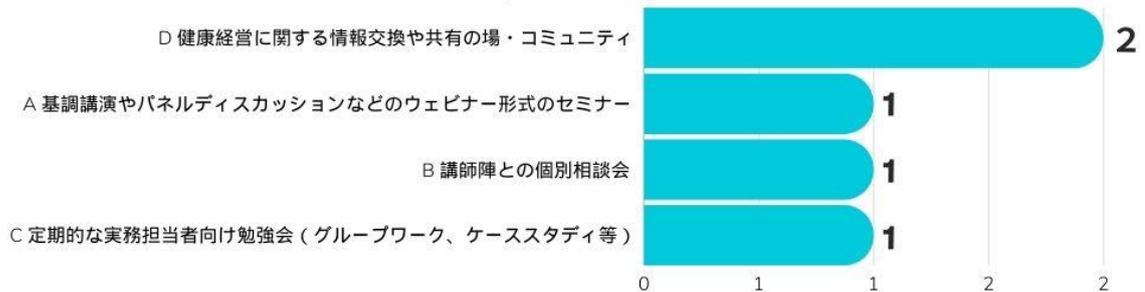
設問：今後、健康経営の研修会が行われることになった場合、

ご要望のある開催形式がございましたら

選択してください。(複数選択可) 【必須】

アンケート設問
 入門コース：10
 経験者コース：12

入門コース



経験者コース

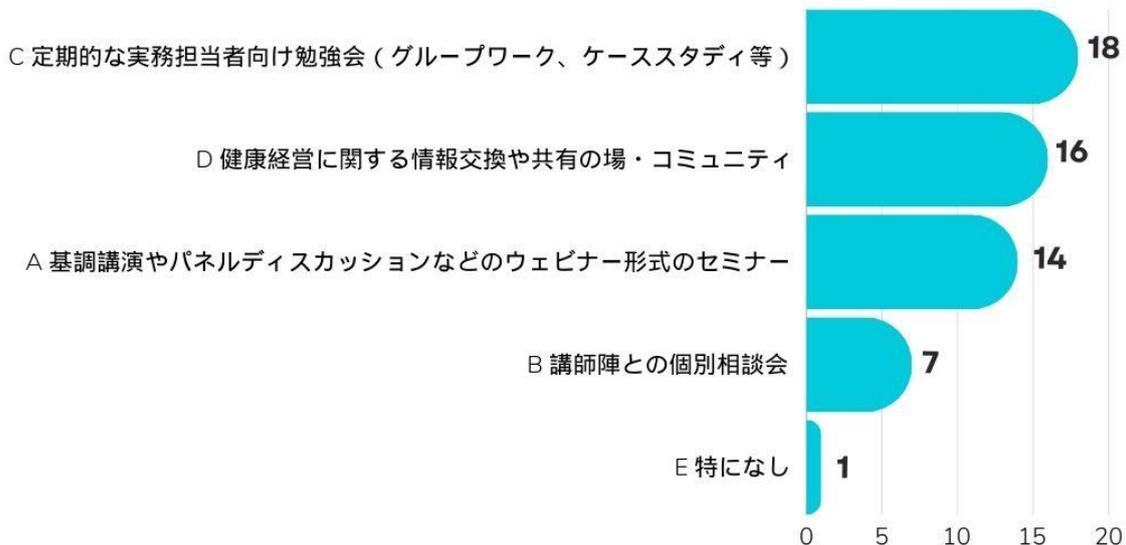


今後の要望〈その2〉

設問：今後、健康経営の研修会が行われることになった場合、
ご要望のある開催形式がございましたら
選択してください。（複数選択可）【必須】

アンケート設問
入門コース：10
経験者コース：12

入門・経験者コース(ALL)

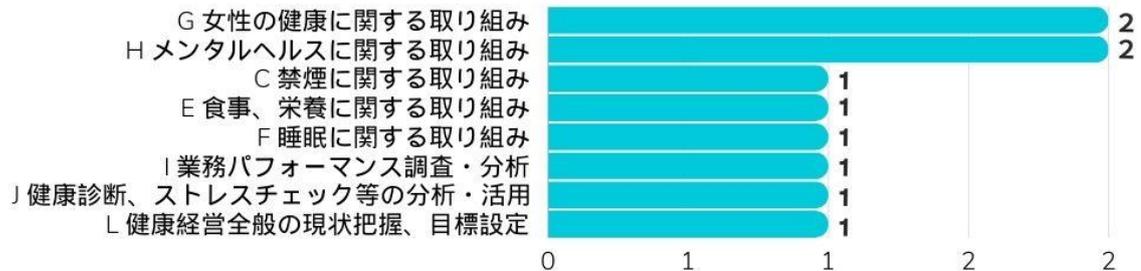


取り組みたい保健事業〈その1〉

設問：今後、自組織にて取り組みたい保健事業がありましたら
選択してください。（複数選択可）【必須】

アンケート設問
入門コース：11
経験者コース：13

入門コース



経験者コース



取り組みたい保健事業〈その2〉

アンケート設問

入門コース：11

設問：今後、自組織にて取り組みたい保健事業がありましたら 経験者コース：13

選択してください。（複数選択可）【必須】

入門・経験者コース(ALL)



その他の意見についてのコメント：入門コース

- オンラインでの参加でしたが、健康経営優良法人の申請に必要なチェック事項などについての質疑応答をしやすい環境があれば尚よかった。
- 今回は貴重な研修会ありがとうございました。

その他の意見についてのコメント：経験者コースは8

- 指標の作り方や、そもそもの目的を再認識できたと思いました。
- 健康経営＝調査票回答が主目的になってしまいそうな感覚も否めない中、原点に立ち返り健康経営に取り組む本当の目的をしっかりと考え、施策に落とし込み、評価、改善に繋げていくことの必要性を改めて実感しました。各講師陣ともに分かりやすい説明と最新の知見に基づいた講義で、非常に参考になりました。遠いところからありがとうございました。
- 各社との交流の、時間をプログラム内に設けてはどうでしょうか？各社の具体的な取り組みが知りたいです。成功事例とか。
- 今回は貴重なお話をありがとうございました。
- とても学びの多い研修でしたので、ぜひ年度始めや調査票公表始めの時期、調査票提出前など、複数回に分けて開催して頂けると嬉しいです。
- 先生方の講演や他事業所との情報交換で大変よい刺激になりました(ふだん1人職場なもので)勇気をもらえたと思います。ありがとうございました。
- 今回はこのような貴重な機会をいただきましてありがとうございました。

(4) 効果検証、研修を踏まえたセミナー開催

内閣府沖縄総合事務局 令和5年度地域経済産業活性化対策調査事業

2024おきなわ健康経営シンポジウム

この度、沖縄県内企業の健康経営普及啓発および質の向上を目的とし、内閣府沖縄総合事務局「令和5年度地域経済産業活性化対策調査事業」の委託事業の一環として、県内企業の健康経営の健康投資効果分析・検証が行われました。そこで、最新の健康経営の動向や、社員がイキイキと健康に働けるためのノウハウ等を講演で学ぶと共に、健康投資効果検証結果の紹介に関するシンポジウムを開催いたします。また、県内健康経営優良法人認定企業を対象に、内閣府沖縄総合事務局長による認定証の授与式も行います。

健康経営優良法人2024を申請された企業様や、次回の申請を検討されている企業様、健康経営の効果について関心をお持ちの企業様等、ぜひご参加ください。

 **日程** 2024年3月15日(金)
13:30~17:00 (13:00受付開始)

 **会場** 沖縄県立博物館・美術館(おきみゅー)講堂
(那覇市おもろまち3丁目1番1号)

 **対象** 沖縄県内企業

 **参加費** 無料

 **プログラム** 13:30~開会挨拶
13:35~講演
16:00~健康経営優良法人
認定証授与式
16:55~閉会挨拶

地方初!

内閣府沖縄総合事務局長
三浦 健太郎より
認定証を授与いたします

県内認定企業の集合写真も
会場にて撮影します



健康経営優良法人2024の
傾向と今後の展望

山崎 牧子
経済産業省
商務・サービスグループ
ヘルスケア産業課 課長補佐



健康経営につながる
ワーク・エンゲイジメント

島津 明人
慶應義塾大学
総合政策学部 教授



健康経営は健康文化づくり

永田 智久
産業医科大学
産業保健経営学 准教授



健康経営推進企業の健康投資
効果検証結果の紹介

木村 大地
株式会社アイセック
代表取締役CEO

 **お申込方法** 3月14日(木)までに下記二次元コードからお申し込みください。

 **申込二次元コード** https://mm-enquete-cnt.meti.go.jp/form/pub/okinawa-kikakushinkou/2024kenko_symposium



問い合わせ先

委託先：株式会社 アイセック
tel:025-378-8858 mail: support@iseq.co.jp

(お問合せ可能時間：平日9時~18時)

■プログラム

13：30～開会挨拶

13：35～講演

- 「健康経営優良法人 2024 の傾向と今後の展望」
経済産業省 商務・サービスグループ ヘルスケア産業課 課長補佐 山崎牧子
- 「健康経営につながるワーク・エンゲイジメント」
慶應義塾大学 総合政策学部 教授 島津明人 氏
- 「健康経営は健康文化づくり」
産業医科大学 産業保健経営学 准教授 永田智久 氏
- 「健康経営推進企業の健康投資効果検証結果の紹介」
株式会社アイセック 代表取締役 CEO 木村大地

16：00～健康経営優良法人 認定証授与式

- 内閣府沖縄総合事務局長 三浦健太郎

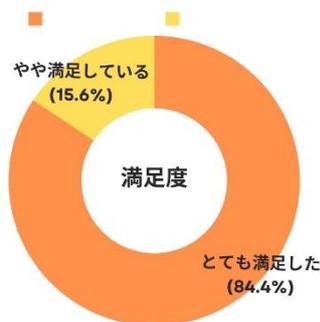
16：55～閉会挨拶

<アンケート結果>

シンポジウム全体評価

設問：本日のシンポジウムの内容はいかがでしたか。
5段階評価をお願いいたします。

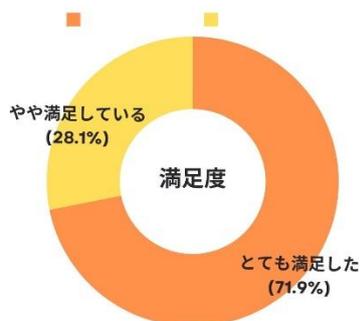
- 回答：全く満足しなかった
あまり満足していない
どちらとも言えない
やや満足している
とても満足した



講演1_経産省

設問：「健康経営優良法人 2024 の傾向と今後の展望」について
講演者：経済産業省 山崎 課長補佐

- 回答：全く満足しなかった
あまり満足していない
どちらとも言えない
やや満足している
とても満足した



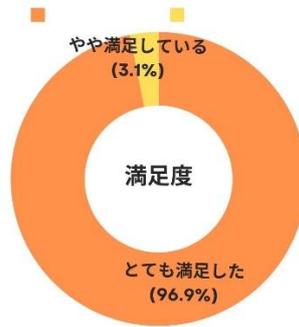
講演2_島津教授

設問：「健康経営につながるワーク・エンゲイジメント」について

講演者：慶應義塾大学 島津 教授

- 回答：全く満足しなかった
あまり満足していない
どちらとも言えない
やや満足している
とても満足した

アンケート設問
紙：4
フォーム：4



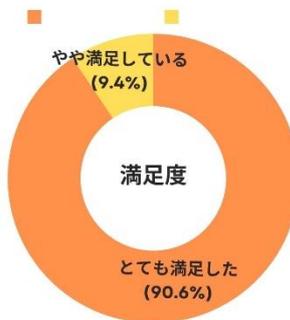
講演3_永田准教授

設問：「健康経営は健康文化づくり」について

講演者：産業医科大学 永田 准教授

- 回答：全く満足しなかった
あまり満足していない
どちらとも言えない
やや満足している
とても満足した

アンケート設問
紙：5
フォーム：5



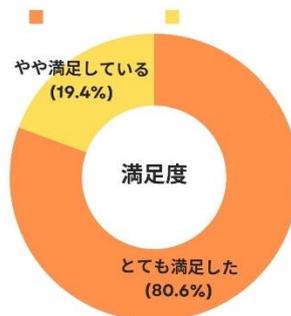
講演4_木村社長

設問：「健康経営推進企業の健康投資効果検証結果の紹介」について

講演者：株式会社アイセック 木村 社長

- 回答：全く満足しなかった
あまり満足していない
どちらとも言えない
やや満足している
とても満足した

アンケート設問
紙：6
フォーム：6

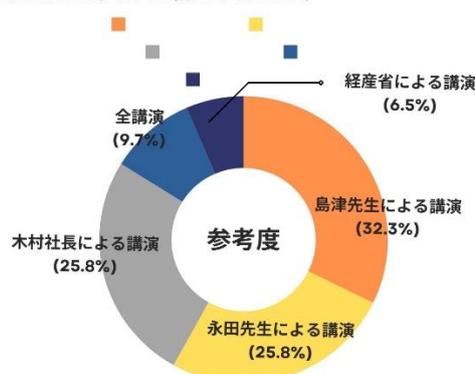


最も良い講演

設問：本日の講演で最も参考になったプログラムを教えてください。

- 回答：経産省による講演
島津先生による講演
永田先生による講演
木村社長による講演

アンケート設問
紙：7
フォーム：7・8



現在の取組状況

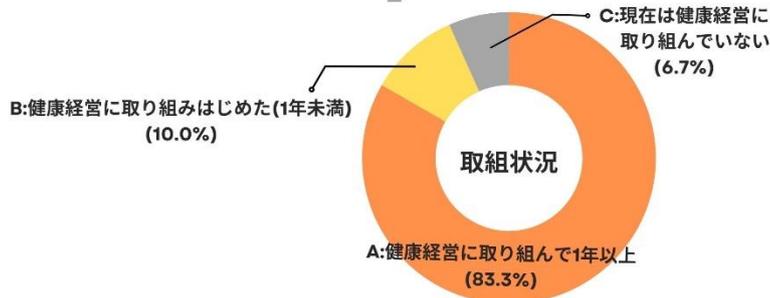
アンケート設問

紙：8

フォーム：9

設問：現在の健康経営の取り組み状況について、該当するものをご選択下さい。

- 回答：A:健康経営に取り組んで1年以上である
B:健康経営に取り組みはじめた(1年未満)
C:現在は健康経営に取り組んでいない



認定状況

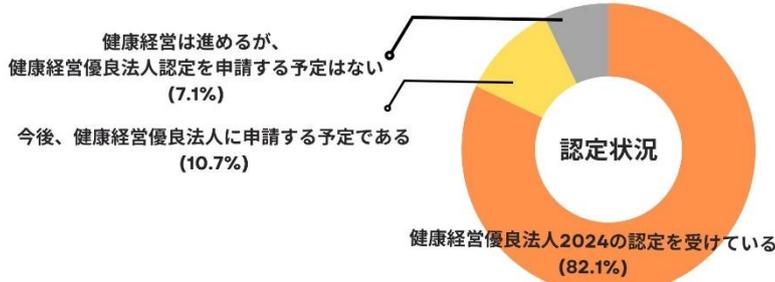
アンケート設問

紙：9

フォーム：10-1

設問：現在の健康経営優良法人制度の認定状況について教えてください。

- 回答：健康経営優良法人2024の認定を受けている
健康経営優良法人2023以前の認定は受けたことがある
今後、健康経営優良法人に申請する予定である
健康経営は進めるが、健康経営優良法人認定を申請する予定はない



参加したいイベント

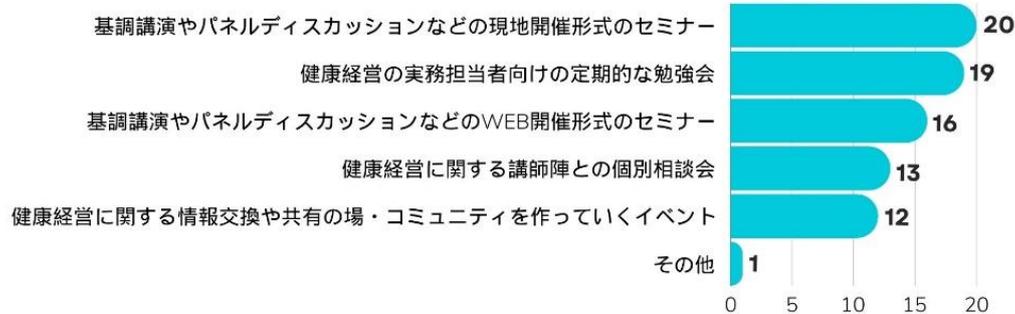
アンケート設問

紙：11

(健康診断受診率向上等の基調講演やパネルディスカッションなどのWEB開催形式のセミナー) フォーム：11

設問：今後、健康経営のイベントが行われることになった場合、参加したいと思う内容がございましたら選択してください。(複数選択可)

- 回答：健康診断受診率向上等の基調講演やパネルディスカッションなどのWEB開催形式のセミナー 特になし
健康診断受診率向上等の基調講演やパネルディスカッションなどの現地開催形式のセミナー その他()
健康経営に関する講師陣との個別相談会
健康経営の実務担当者向けの定期的な勉強会(グループワーク、ケーススタディ等)
健康経営に関する情報交換や共有の場・コミュニティを作っていくイベント



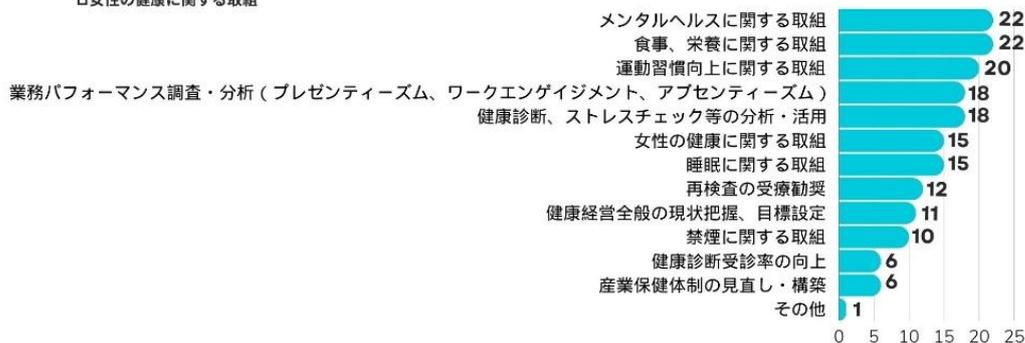
取り組みたい内容

アンケート設問

紙：12

設問：今後、自組織にて取り組みたい保健事業がありましたら選択してください。(複数選択可) フォーム：13

- 回答：健康診断受診率の向上 メンタルヘルスに関する取組
再検査の受療勧奨 業務パフォーマンス調査・分析(プレゼンティーズム、ワーク・エンゲイジメント、アブセンティーズム)
禁煙に関する取組 健康診断、ストレスチェック等の分析・活用 産業保健体制の見直し・構築
運動習慣向上に関する取組 健康経営全般の現状把握、目標設定
食事、栄養に関する取組 特になし
睡眠に関する取組 その他()
女性の健康に関する取組



(3) 調査結果を踏まえて効果指標の提示、標準化に向けた課題整理

<p>効果指標提示 ・ 課題整理</p>	<p><調査結果を踏まえた効果指標の提示> 本事業において解析した結果に対する効果指標は下記の通り</p> <p>■健康指標 下記の指標において、健康経営を始める前後の差分解析を行い、効果を可視化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康意識変化 ・健康行動変化 ・健康結果の変化 ・ハイリスク者アプローチの効果（II 度高血圧、高血糖） ・ワークエンゲイジメントの変化 <p>■経済効果指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企業が実感した健康経営を取り組んだ効果 <ul style="list-style-type: none"> ○組織活性化、人材採用、企業業績の向上、ブランドイメージ向上、顧客満足度向上、リスクマネジメント強化、従業員モチベーション・エンゲイジメント向上、生産性向上、健康状態改善、生活習慣リテラシー向上、コミュニケーション改善、過重労働の抑制、離職防止 ・財務効果 <ul style="list-style-type: none"> ○資本金・売上高・営業利益、ROE、ROS 等 <p><標準化に向けた課題整理></p> <p>■健康指標 今回解析を行った3者における課題は以下である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康経営に資する健康診断情報等がデータ化されていない。 ・データ化はされているが、39歳以下と40歳以上のデータ仕様が統一化されていないため、経年での解析が不可または困難。 ・データはあるが、解析できる人材がいないため、健康に関する「宝」が埋没しており、活用しきれていない。 <p>■経済効果指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 経年での比較効果検証が不可 仕様が頻繁に変更する <ul style="list-style-type: none"> ○ 社会背景トレンドや検討委員会における内容を反映した調査票であり、毎年度、仕様変更を行うと経年比較の効果検証ができない。 ○ 同じ仕様は最低3年(基本5年以上は固定してほしい) ● 認定群と非認定群の差異分析が不可 <ul style="list-style-type: none"> ○ 非認定企業のデータがない ○ 本来の分析目的は「認定企業のパフォーマンス」を測りたいはずなので、最も有効なのは、認定群と非認定群の差異分析となる ○ 今回の受領データは、認定された企業のデータのみで分析 ● 健康経営の効果指標が不明瞭
------------------------------	--

	<ul style="list-style-type: none"> ○ 研究デザイン検討の結果、マッチドペア・傾向スコアマッチングをすることとした。 ○ 本来認定の基準が必要だが、基準非公開のため、恣意的ではあるが我々で基準を設定した。 ○ 従業員への健康投資とは何か。「それぞれの効果の定義が必要」である。(数値化可能項目は入れるべき) ○ <u>「健康経営」とは、従業員等の健康管理を経営的な視点で考え、戦略的に実践することです。企業理念に基づき、従業員等への健康投資を行うことは、従業員の活力向上や生産性の向上等の組織の活性化をもたらし、結果的に業績向上や株価向上につながると期待されます。</u> <ul style="list-style-type: none"> ▪ 業績及び株価向上の場合：売上・営業利益・経常利益・当期純利益など ▪ 従業員の活力及び生産性の場合：従業員あたり売上高・従業員あたり利益 ▪ 組織の活性化及び安定化の場合：離職率や休職率など
--	--

(4) 次年度に向けた提言

<p>次年度に向けた提言</p>	<p><提言></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 今年度事業にて構築した資産の継続活用 <ul style="list-style-type: none"> ➤ 健康経営投資効果検証モデルの水平展開 <ul style="list-style-type: none"> ◇ 多くの企業から、自社でも本事業の解析モデルで効果検証を実施してほしいと依頼があった。 ◇ 経年で効果検証を行うことで、より価値のある結果が示せる。 ◇ 企業間連携でデータを共有し、比較検証を行うことで、沖縄県内における企業規模や地域、業種等の様々な属性比較が行える。 ➤ 研修会の定期開催 <ul style="list-style-type: none"> ◇ 健康経営度調査票の作成前と作成後に、受験対策のような研修会を求める声が多数あった。 ◇ 一方で、健康経営は手段でしかなく、本質的な健康経営の定着及び深化を鑑み、データ活用の講習やエンゲイジメントや無形資産のPOS等の活用などの具体的なテーマの研修依頼も上がっている。 ➤ シンポジウムの企画運営 <ul style="list-style-type: none"> ◇ この度、沖縄県内企業のヒアリング結果を踏まえ、全国の課題同様にトップの理解を得られないという声を聞き、経済産業省ヘルスケア産業課の担当者との協議及び交渉の結果、地方で初となる「健康経営優良法人認定証授与式」の開催を実現できた。
------------------	---

- ◇ トップが表彰を受けることで機運が醸成され健康経営推進に大きく貢献できたことは、すべての関係者が実感できたところである。
- ◇ 一回で終わることなく、来年度もシンポジウムにて表彰を受けることを目指して、健康経営に投資する企業が増えることも鑑み、継続的な企画が必要である。

<提言の背景>

投資効果検証及び、関係者ヒアリング、研修、セミナー開催の一連の事業を通じ、多くの沖縄県内企業からは、次年度以降の継続を望む声を頂いた。

3月15日のセミナー（2024 おきなわ健康経営シンポジウム）以降、受託企業である当社に下記の要望を複数いただいている。

■沖縄県内企業からの要望

- ・健康経営に関するセミナー及び研修会を継続して企画してほしい。
- ・各領域の第一人者の講師陣に、継続して講演してほしい。
- ・データ解析や効果検証のノウハウを学ぶ機会が欲しいので企画してほしい。
- ・健康経営投資効果報告で紹介した解析モデルを、自社の健康データをもとに解析してほしい。
- ・自社のみではなく、県内の他社とも連携しながら、共同で研修やデータ分析、健康経営投資効果検証を行いたい。
- ・今年度の効果検証を、経年で解析できる環境を構築してほしい。
- ・シンポジウムでは、トップが参加するだけの価値ある表彰式があったため、会社全体を推進する上でも大変有意義なシンポジウムであった。健康経営優良法人認定式は今後も継続できるよう支援してほしい。

<まとめ>

- ・今年度は地元企業要望と連携をして、価値ある結果を残せたと自負している。
- ・当該事業における解析結果や提言は2024年3月26日に経済産業省及び健康経営推進事務局の方々に1時間の発表時間を頂き報告し、高い評価を得た上で、今後資料も活用させて頂きたいと依頼いただいた。
- ・事業目的である、「県内での健康経営の取組みにさらに拍車をかけ、全国の好事例のモデルとして波及させる事で、今後の健康経営の更なる普及を目指す。」という点においては、まさに全国の好事例として、沖縄県でのモデルが評価される一歩となり得たのではないかと考える。
- ・当該事業は単年度事業ではあるものの、今後は地域で自立した健康経営推進の流れを作るべく、「おきなわ健康経営プラスワンプロジェクト」のような民間企業コンソーシアムや、沖縄県や経済団体等からの支援を受けながら、自治体と連動した企画を創出し持続可能な健康経営支援モデルを築いていくべきと強く感じた次第である。

	<ul style="list-style-type: none">・当社としても、沖縄県内のリーディングカンパニーの数社とは、個別にも健康経営に関する相談を行いたいとの話もあり、今後も沖縄県内の中小企業も含めた健康経営の中小企業を含めたすそ野の拡大に注力したい。
--	--